

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称		つくば市地域ケア会議及び生活支援体制整備推進会議 (令和元年度第 3 回)			
開催日時		令和 2 年(2020 年) 1 月 23 日 開会 13:30 閉会 16:30			
開催場所		つくば市役所コミュニティ棟 会議室 1			
事務局 (担当課)		保健福祉部地域包括支援課			
出席者	委 員	山中委員長、平松副委員長、成島委員、伊藤委員、大曾根委員、山田委員、小原委員、飯泉委員、峯本委員、太田委員、芥川委員、村上委員、但野委員、佐藤委員、椎名委員、根本委員、浅井委員			
	その他	つくば市生活環境部環境衛生課 大野係長、同 原主任主査 筑波地区地域包括支援センター 戸塚保健師、 荃崎地区地域包括支援センター 長岡社会福祉士、 大穂豊里地区地域包括支援センター 井ノ口管理者、 谷田部西地区地域包括支援センター 今高看護師、 つくば市社会福祉協議会 大竹統括係長、同 柴崎主任主査、 同 倉持主任主査、同 飯島主査、同 猪瀬主任			
	事務局	水野保健福祉部長、小室保健福祉部次長、黒田保健福祉部参事、会田地域包括支援課長、板倉地域包括支援課課長補佐、飯島係長、松尾社会福祉士、久保主任介護支援専門員、苅谷社会福祉士、沼尻地域ケアコーディネーター、岡田高齢福祉課係長、小林介護保険課係長、小林介護保険課主査、大山国民健康保険課課長補佐			
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開		傍聴者数	0 人
非公開の場合はそ					

の理由		
議 題		(1) 生活支援体制整備推進会議 ア 報告事項 (ｱ) 事業進捗状況（資料No.1） (ｲ) 社会福祉協議会への生活支援コーディネーター委託経過（資料No.1） イ 審議事項 (ｱ) フォーラムについて（資料No.2、3） （内容、対象、タイトル、タイムスケジュール、場所、役割分担ほか） (2) 地域ケア会議 ア 報告事項 (ｱ) 事業報告（資料No.4） (ｲ) 移動支援の試験運行の経過（資料No.5） イ 審議事項 (ｱ) ごみ問題について（資料No.5） ・ 介護支援専門員意見交換会での報告 ・ 上記報告を踏まえた第2層協議体での話し合いの報告 ・ 環境衛生課との情報交換 (3) その他
会	1	開 会
議	2	報告及び協議
次	3	閉 会
第		

--	--

審議内容

(1) 生活支援体制整備推進会議

事務局：配布資料に基づき説明。

以下、主な意見等

委員長：どうもありがとうございました。非常にポイントを絞って、かつ今の問題などもまとめていただいたのですが、今の報告について質問やコメントなどがありましたらお願いいたします。

私の方からですね、少し皆さんから意見が出てくるまでの間少しお伺いしたいのですが、本当に荻谷さんの今までやられたことというのはポイントを絞っていろいろ教えていただいたのですが、地域の皆さんが集まってそれぞれがやりたいことをまとめていく、というのが非常に上手だなと思いました。それがどう現実的に活動していくか、結びついていくか、というところがこれからの課題だというようなお話だったのですが、今例えば 11 枚目の資源マップというものが少しずつできているのですね。それから、やりたいことシートというのもできてきているし、それをまとめる技術というのもできていると思うのです。13 や 14 ですね。ここまで形ができてきているので、そうすると、私などは少し世代が違いますが、大学に籍を置いて学生などと諸々なことに関わっていると、例えば資源マップのような支援団体や活動のサークルなどで、来年度の初めにマップをいろいろ配るという話ですが、年に 1 回くらい最初に区長さんなどと一緒にどこかでそういう団体や活動の紹介などが、こういう活動やっています、という感じで広められると、あ、こういうのがうちでもあるのかとか、そういうのが分かって良いのではないかなと少し思いました。それから、一つの地区でも二つの地区

でもこういうマップが出てくると、まだできてない圏域に、例えばこんなのがあります、ということで配れてイメージが湧く、というのですごく良かったなと思います。だからこれからは早いのではないかなと思います。今までは本当に大変だったと思うのですが、他の地区ではこういうのがあります、ということで見られるというのはすごく良いのではないかなと思っていますね。それから、やはり今大学は、支援が必要な学生がすごく多くて、いろいろな団体などを学生さんと一緒にやっているのですが、まずどういう資源があるかとうことは先に調べてしまうのですね。足りないものは何でしょう、とみんなで考えていく感じなので、やりたいことシートというのを見せる前に今もうでき始めているので、そのマップ、今こういうものがあります、これ以外でどんなことが必要でしょうかねとやると、すごく連動してきて、次は良いのではないかなというのと、年に1回年度の初めに、そういう活動や支援団体などのインフォーマルなものの紹介というものがあったら、次はメンバー募集ということで、こういうことをやってみたいという、変な話ですが例えば学校でもどこでも、こういう部活を作りたいと言ったら、じゃあお前何人か募れよ、募集のチラシを作れよ、といったことがあるじゃないですか。そういうものをコーディネーターの方がこれから決まっていったら、後押ししながら、あちらこちらで今メンバーを募集していますと、拠点などを提供してくれるところはないですかと、そういうふうになっていくと面白いのではないかな、とすごく思いました。というのが最初の感想も含めてなんですけども。委員の皆さんの中でも、実際の圏域の中でいろいろ参加されていて、それからこれを見て思うところがあると思いますので、意見やコメントなどを頂けたらと思いますけども。

委員：2点ほどあるのですが、まずレジュメの10枚目ですね。委員長からもあったのですが、社会資源の発見のところは、すごく私もお話聞いている各地域でいろいろやられていて素晴らしいなと思ったのですが、ちょうど今つくば市さんでR8、リージョンエイトの取組を今年実証実験やっけていまして、たまたま私上

郷のマップを見たのですが、やはりキャッチフレーズが、なるほど上郷の魅力再発見というふうに出るのですね。上郷の協議会さんで去年の12月に上郷なるほどマップというものを作ってまして、こういうすごく古いお寺がありますよ、こういうお祭りがありますよ、というものを作られていますので、部が違うんですね、あちらは何部ですか、違う部になってしまうのですが、もし社会資源一覧表等々ですね、コーディネーターにおろしていく際に、そういうのも、確かにリージョン8なので谷田部と大曽根と、商店街の8地区だと思いますので、それぞれの地区でもし採用するところがあれば、そちらの方とも連携していただくと大変良いのではないかなというふうに思いました。あと2点目は、レジュメでいうと16ページ目のところですが、これもまた委員長の先ほどのコメントに絡むのですが、やりたいことシートですね、具体的にどうしていくかというところ、これは本当に私の意見ですが、やはりどうしてもすぐできない理由を考えてしまうのが普通かと思うのですが、是非いろいろな方が熱い思いをしていると思いますので、やるためにはどうするかというのを優先して考える、という取組が今進んでいるかと思い、大変良い傾向かなというふうに感じました。以上、感想と要望でございます。

委員長：ありがとうございます。1点目のことですが、リージョン8とはどこの委員会なのですかね。都市計画部。この前もいろいろ出たのですが、これからはこの後出てきますけども、フォーラムなどでも分科会の話は無くなってしまったのですが、分科会で予定していた認知症の人のための街づくりの話というのは、例えば他の認知症のことについてやっている委員会や、そういったところとコラボしていたりするのが大事だと思うし、ここ単独ではなくて、やはり関係するところと一緒にやるというのはこれから結構大事だと思うので、是非そういう情報なども入れていただいて、一緒に考えていくことも大事だと思います。知らなかったよ、というのはもったいないですし、こちらでもんでいたのだけれど、実はそちらでそういったものがあったのか、ということはあると思いますので。その他、

いかがでしょうか。

委員：今委員長の方からお話を頂いたと思うのですが、荃崎については、これから取り組みたいなと思っているのですが、先ほどの、マップとい分かりにくくて、中身がよく分からない。具体的にはリストを作って、中で、どこで、どんな活動をといる、誰に問い合わせをしたら良いのか、そのために自分が参加できるのかできないのか、といった一つの概要ですね、そもそも活動の。そこまで落とし込む必要があるだろうと。荃崎の場合いろいろ私も調べておりますけども、要するに生活支援サービス、具体的な困りごとを何とかしようと活動している団体が、具体的にどういサービスを、どうい団体がどのくらいの規模で行われているのか、ということ把握できて、それをそこに自分が、例えば支援を求めている人が問い合わせをできるような、そこまで落とし込む必要があるだろうと。それからいわゆる介護までいなくても、介護予防という観点からは、サロンの活動というのは実際には荃崎でなら 18 くらいありますよね。居場所を作っていく活動などは、個々にどんな居場所があってというふうに、分かりやすくする必要あるだろうと。それからあとは健康維持ということでは、市民を含めたサークル活動ですね。やはりこれも是非加えていって、どこでどんな市民活動が行われているのか、例えば交流センターですとか福祉センターですとか、多分いろいろな所で行われているので、そこに自分が参加できるのか、あるいは月 1 回やっているのか、1 週間に 1 回なのか、どうい人たちが参加しているのか、というところまで落とし込んで、それを誰に、どこに問い合わせたら良いのか。やはりそこまでそうい一つの概要を詳しくまとめた冊子というか、情報発信をする必要があるだろうというふうに思っております。例えば、市民のサークルが、荃崎の場合百数十箇所ありますが、そのサロンや居場所などをもう少し広域に考えれば、今もちろん自治会もそうですし、それからシルバークラブもそうですね。そうい活動となるとやはり 200 近い、いろいろな活動が行われていると。やはりそういったものを一覽でまとめていくと、自分がどこに興味があって、そこに入

るか加わるかどうかということも判断できると思います。ですから、そういったものを是非、各地区の中で、前回の12月の「ざっくばらんな会」（事務局注：委員が任意で集まった非公式の会）の中の発言があるようですけども、是非それを実現していけば、今先ほどご説明された全体の位置づけで足りないもの、あるいは、やりたいというのは心の中で出てくる課題で結構だと思うのですが、まず実態や実情を整理して公開するとか。それを是非、やる必要があるというふうに思っておりますので。2層の役割なのか、あるいは個々のこれからの生活支援コーディネーターが主体的にやっていくことになるかということにはなると思うのですが、是非そこを進められればということで。私の方の2層では今そういったかたちで、まあ予算のこともあるのですが。何とか茎崎としてはまとめられれば良いなあというふうには考えています。

委員長：ありがとうございます。1層はやはり全体の骨格づくりということになりますので、結構そういう情報はすごく大事だと思ひまして、他の市町村と比べると、何度かお話をさせていただいておりますが、つくば市の強みというのはインフォーマルサポートなどが冊子になっているというところだと思います。それが2層3層のレベルまでそれぞれの地区で持っているとなると、すごい強みになってくると思ひますし、今荏谷さんの方で示しいただいた11枚目のスライドだと、まだこれは、連絡先とか対象となる人までは細かく挙げたりできてないわけですね。

事務局：始まりが、実際の地域資源がどういった所にあるかというのを簡単に調べだしたということですので、連絡先までは調べておりません。ただ取りまとめているところがあればそこへ連絡することができるので、あとで加筆ができるのではないかなというふうに思っております。一度現時点で内容を確認して、どういった所でやっているかという事をまとめさせていただいて、徐々に活用しやすいように連絡先などを加工できるようにしていきたいな、と思っております。

委員長：前回のざっくばらんな会合、そちらの方で柏の社協が作った、インフォー

マルサポートのリストっていうのを・・・、副委員長。

副委員長：私も、一覧になっていて、対象者そして窓口がどうか、料金なども発生するのか、そのような一覧がちょうど柏の社協さんで作られたものがあるので、ざっくばらんな会でお話したのですが、ケアマネジャーの立場からしますと、地域のことがわからない、見えないことが多くあります。特にサービスでできるところ、サービス外ですね、ちょっとした電球交換とか、犬の散歩ですとか、できないところに1番困っています。やりたいことシートによって、地域でどんどん繋がっていろいろなことが見えてきた、それも私達は知りたいですし、あと問題点、自分ではできなくなってくるゴミの問題もそうですし、そういうことが一覧になることで、私たち、副委員長としてではなくケアマネジャーとしてそういったところに問い合わせをして、サポートを地域の方と一緒にできるかなというのもありますので、是非、一覧という形で実現できたら良いなという希望をお話させていただければな、と思います。

委員長：ありがとうございます。佐藤委員の話ですと、やはりこれから使う側にたってどういう示し方が良いのかな、ということが結構大事になってくると思いますので、是非、特に市民委員の皆さん、それから住民団体として参加されている区会連合会の小原さん、飯泉さんや峯本さん、そういった方々に見ていただいて、これだったら住民の皆さんがわかりやすいな、となっていくと良いかなと思うので、そんな感じでモニターしてもらいながらやっていくと良いのではないかなと思いました。

それでは、議題がたくさんありますので、次に移らせていただきたいと思います。そうすると大事な生活支援コーディネーターのことですが、社会福祉協議会への委託の経過ということについて、括弧のイの説明をお願いいたします。

事務局：配布資料に基づき説明。

以下、主な意見等

委員長：ありがとうございました。前回の会議では社協への委託の方向で、という

お話でしたが、それが現実になっていったということですが、皆さんいかがでしょうか。社協の方から何かありますか。

事務局：それでは、本日のこの会議に社会福祉協議会の方々がいらっしゃっていますので、自己紹介をお願いいたします。

— 社協職員の自己紹介 —

委員長：ということで既にやる気満々で、よかったですね。各地域の拠点とか、あとそれから住民の皆さんへのお知らせお披露目、紹介というのはどうなるのでしょうか。

事務局：はい、こちら1月から3月までの間に、全圏域1回は第2層の協議体の会議がございますので、その際に紹介させていただきたいと考えております。

委員長：資料1の、最初の2ページ目にあるガントチャートで見ると、4つの圏域だと2～3月ということですね。で拠点もありますということですね。はい。じゃあこの件はよろしいでしょうか。

それから既に予算案については、1回目の会議で挙がっていたと思いますので、そちらの方でやっていくということだったと思います。それでは、続いて次の議題にいきたいと思います。

次は審議事項に入ります。前回の会議で、一番最後にもむことになっていて時間切れになってしまったフォーラムのことなのですが、こちらについては12月のざくばらんな会でもかなりいろいろ話し合いましたけども、まだまだ足りないところがございます。それからその際ご欠席された委員の皆さんもいらっしゃいますので、それではこの件について。

事務局：こちらフォーラムのたたき台ということで、資料No.3として出させていただきましたので、こちらがこれまでのお話いただいたことをまとめたもの、事務局でもプラスしたものもございますけれども、こちらを基に、ご協議・ご審議い

ただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員長：はい。それでは資料の2と、それから、差し替えの3でしたっけ。

事務局：3は、本日差し替えになっております。

委員長：ということですが、送付された資料のNo.2というのが、今日検討していくこと、それから、今日配布された差し替えの資料の中で、真ん中あたりに資料No.3、題名未定、フォーラムのタイムテーブルのたたき台という、こちらを基に見ていきたいと思います。2回目の会議の時に、分科会も案として出ていたのですが、12月のインフォーマルな話し合いのときに、絞っていった方が良いのではないかということになってきました。それからタイムテーブルなどのことも、少し時間も変更になっています。先に検討事項を見る前に、全体が見られますので、タイムテーブルの方を見ていただきたいと思います。場所は、いろいろありましたが、市役所の中の会議室の201号室をメインとして、それから、入りきらない可能性があるので、隣の202でテレビ中継をやる、ということになりました。それで、最初の方の入場のところはいいとしまして、13時から開会挨拶がございまして、そのあと13時10分から基調講演ということで、厚労省の老健局長の大島局長に「地域ケアと生活支援体制整備に求められる役割」ということで、仮題ですけども、していただきます。そのあと、休憩を取った後に、シンポジウムということで、これはつくば市のいろいろな取組ということで、そういうことを発表させていただいて、集まった市民の皆さん、それから近隣地区の市町村の皆さん、それから老健局長の大島局長にも聴いていただいて、コメントをいただくというものです。大島局長には、以前交渉の時には、私の方でお話をさせていただいたのは、やはりモデルということだと、東京の高島平であったりとか、柏の豊四季であったりとか、そういう所の名前がすぐ挙がると思うのですが、やはり日本にはいろいろな地区があるので、いろいろな事情があります。でもつくば市というのは東京からそんなに遠くなくて、いろいろな地区が合併しているので、一度にいろいろ見られます、というようなことで、それはいいね、ということで、地

域の違いとか難しいところでいろいろやっている町というのはいいね、ということで内諾を得られましたので、そういった特徴や今までの取組を皆さんに発表していただけると良いかな、と思っております。新たに 14 時の最初のところで 20 分間、水野部長につくば市の特色・取組をお話いただいて、全体的なところをお話いただいた後、つくばの中の異なる取組ということで、2 本、各地域でいろいろされている方に、是非発表していただきたいと思っています。時間的には 2 本。それで最後に、これ入れ替わったのですね、最初につくば市の今ご発表いただいたような生活支援体制整備の特徴的なところを話していただく、ということだったのですが、最後に持っていく。それで先に各地域での取組ということで 2 本発表していただく、でその後、局長からのコメントであったり、フロアの皆さんから、いろいろコメントをいただいて 3 回、それからずっと聴いてくれる人ばかりではなく、ちょっと聴いて、この町どんなことやっているのか、といろいろ知りたいな、と思う人のために、廊下とかに、企業で、市の皆さん、特に高齢の皆さんの健康などを考えてこういった取組をやっています、といった企業の展示であったり、2 層協議体でこれから募って、活動の紹介のパネルや、パンフレットを置いたり、地域のフォトコンテストその他もろもろのいろいろなイベントのようなものも外に準備しよう、ということになっています。それから時間的には、つくば市のシンポジウムのところですが、つくば市の特色が水野部長 20 分で、そのあと取組が 1 時間 20 分で、

事務局：すみません。②間違えました。20 分です。申し訳ございません。

委員長：ということですね、その後つくば市 20 分ということで。大体集まっていた皆さんの集中力などを考えるとこれくらいじゃないか、ということで作ってあります。こうした流れで、メールの方でもご連絡させていただきましたが、是非取組の発表などですね、是非やってみたいという方に自薦他薦でご意見頂ければと思っています。ちょっとその点について後でお伺いしたいと思いますが。それで、フォーラムの検討事項というところに戻っていただきたいのですが、最

初に 14 時過ぎからのシンポジウムの内容ですが、流れはこういったかたちでよろしいでしょうか、というのがこう。

委員：全体の流れはこれで、私もよろしいかと思うのですが、タイムテーブルについて、コメントしていいですか。開会挨拶に関して、ここは 5 分でいいのではないですか。どなたが開会挨拶かわからないけど。すみませんあと少し言ってしまうですね、気が付いたところ。基調講演について 45 分、大島局長から、ありがたいと思うのですが、是非 5 分くらい質問をできるように。

委員長：代表質問。

委員：代表質問でなくてもいいですが。5 分くらい質問を取れたらどうか、と思ったのですが、それで基調講演を 13 時 5 分に始めて、13 時 55 分まで、質問 5 分入れて 50 分、あとシンポジウムはこの流れで良いのですが、これについてもできるだけフロアからそれぞれに質問を受けられた方が良いのかな、と僕は思うのですが。一方的に話すだけじゃなくて。それで、それぞれ 15 分の発表で 5 分質問の時間を含んで、質問込みで 20 分というふうにやれませんか。それで最後の局長からのコメント、10 分取っていますが、10 分コメントするというのは大変なことなので。

委員長：やり取りも含めてだと思えます。

委員：わかりました。ここに書くのであれば局長からのコメント 5 分で、僕は良いのかなと思うのですが。それで質疑応答の時間を 30 分取るという感じでどうか、と思うのですが、16 時まで。基本的にはこの流れで結構ですが、できるだけフォーラムというかシンポジウムというかたちですので、フロアからの意見、質問、特に最初は質問がしっかりと出されて、それについて理解を深めてもらうような回答をいただけるといった質疑時間を取っていただきたい、と思いました。以上です。

委員長：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

事務局：取組発表の③は、これはつくば市の発表なのであれば 1 番上の、私かどう

かは別として保健福祉部の誰かが発表する中に盛り込んだ方が、限られた時間で市役所職員が2回発表するというのは少しどうかなという感じがしますので、まとめたかたちでという話だと私は理解していたので、少し先ほどの説明と違って、上の方にまとめていただいて、その中で発表するのが良いのかな、と思います。

委員長：そうすると、続けて、部長の話と合わせたかたちで。

事務局：もし私がやるのであれば、体制整備事業も含めて発表する、ということだと思いますし。

委員長：具体的に取り組んだ人なども、バトンタッチとかで。

事務局：そうですね。そうしたら逆に私は発表しないで、冒頭の挨拶などで若干長めで発表すると思いますが。役割分担でも良いと思いますけど。

委員長：是非是非そういう感じで、どちらか一方というよりはそういう感じで、20分と20分で40分じゃないけど、少し減らした感じで、全体的なところを語って、また外からつくば市に来られて気づいたことなどもお話していただくとすごく良いのではないかと、思うのですが。それで具体的に取り組んだメンバーから、その取組について続いてやっていただくと、一番理想的なのではないかなと思っていますので、是非両方をお願いできれば、と思います。

事務局：はい。

委員長：それと30分とか35分くらいですかね。それで、あと取組の発表20分20分ということですが、ざくばらんな会でも、10分15分のつもりで話してもらって20分くらいなのではないかと。20分と最初から頼むと絶対30分になってしまう、そういう話もあって。多分15分でお願いすると思います。それで、司会私になっているのですが何とか柔軟にやりくりして、質疑応答を実質的に取れるようにしていこうとは思っています。最初の開会なのですが、挨拶は市の方で、この方というのはあるのでしょうか。それとも委員会で要望出せば、この人にやってほしいとなったら意見を出しても良いものなのでしょうか。考えているところは。

事務局：前の会議でも市長にというお話があったので、打診してみようかとは思っておりましたが、まだそこは言ってはいないですね。

委員長：お呼びしていただいて、最初に5分で、大丈夫なのでしょうかね。

委員：開会挨拶のところは10分から5分というのは賛成します。実は日曜日に、小さいお子さんが多かったのですが、100人強集まったキノコ作り体験をやったのですが、いろいろなキノコ作り体験の説明や挨拶を含めて15分取りました。これは小さいお子さんもそうですが、実はアンケート調査の中に、15分という時間はすごく長いという声があった。これは説明まで入れましたが、ですからこれは5分で、基調講演の後に参加された方の質問を入れられた方が良いのではないかな、と私も直感的に思いました。

委員長：それでは皆さん、2人の委員からそのような意見がありましたが、いかがでしょうか。

委員：非常に良いことばかりで結構なのですが、私はいろいろな質疑応答を見ておりますが、高齢者が集まっている会議は、質問が長いです。司会者がよほど、お前黙れ、もうちょっと短くせい、と言うぐらいの人でなかったら駄目ですよ。どのようなスケジュールを組んでも絶対延びます。人間ってね、自分の意見どんどん言いたいのはよくわかるのですがね、高齢者はまあ長い。何言いたいかわからなくなる、最後は。以上です。

委員長：ありがとうございます。頑張ります。いろいろ後でなんぼ言われても、すみません時間です、とやっていこうとは思いますが。貴重なご意見ありがとうございます。本当に経験からのご意見だと思います。各地区の取組は二つでしたよね。それで、基本的には市で部長と生活支援体制整備・地域ケアのメンバーからということで両者に発表していただくのと、あと特色ある各地区からの発表2本ということでいかせていただきたいと思います。あと開会の挨拶については申し訳ないのですが、市で市長の方に交渉いただきたいと思います。それから、廊下の方の企画についてはお任せしてありますので、またこういうところも参加さ

せたらどうかといった意見がありましたら、どしどし委員の皆さんからもいただけたらと思います。市の方でそういうことだったと思いますので。あと、フォーラムの検討事項の方に戻らせていただいて、シンポジウムの内容はこれでオーケー。ターゲットですが、これはどういう方に来ていただきたいといったところですが、これ5月の31日に設定したということは、これまでの委員会で、新年度を迎えて区会や各種委員など新しい年度のメンバーになるので、そうした方に聴いていただきたい、ということがありました。そういうことで、ターゲットとしては、地域のいろいろな市民の皆さんやインフォーマルな活動の役員さん、といった人たちはまず考えられるのですが、その外ターゲットとしてこういうところに周知した方が良いとか、そういったようなことがありましたら、そろそろ準備期間になってきますので、挙げていただければと思うのですが。

委員：このテーマについては、高齢者が多いと思います。中心から外れた地区というのは、みなさん取り組んでやっているのですが、市の中心に新しくできた町というのは平均年齢が30代くらいで、一戸建てを求めて活動している団体もあるのですよ。そこのやり方は全く、集落の人がついていけないようなレベルで物事を進めているわけですね。そういう意味で、今垣根を飛び越えて活動しようよ、全国でそういうふうに変わってきていますよ。お祭りだとか、俺の所はこうだと凝り固まったものの考え方の人はもういりませんよ、正直言って。でも実はそういう方は大事ですがね。そういう意味で、是非、若い人は、いやあ、今は俺の所はそういうのは関係ないや、と言わせないで、いずれ30年後はお前の所もこうなるのだよ、だからいらっしゃいよ、というような呼びかけで、よそから来た、よその自治体から来た、一戸建ての若い人たちのアイディアも聴けたらありがたいなと、そんなふうに思っています。

委員：小原さんすごく良い意見だと思います。おそらく年を取った方が集まると思うのですが、是非、実は最初にこの議論がありました、みんながやりたいこと、これを明確にしていくという話がありましたけども、若い方にターゲットを絞っ

て来ていただくというのは一つだと思うのです。我々の年代になると歴史とか文化とかというのはいろいろなお祭りとかを経験しておりますが、そうではなくて若い方が入ってくることによって時代の流れというのが必ずあると思いますので、是非小原さんの意見は大切にしておいてその辺をターゲットにしていければ良いのではないかと意見を聞いて思いました。以上です。

委員長：具体的には区会などで回して、

委 員：若い方のグループは区会が無い所がたくさんありますので、その辺は苦勞するしかないですね。

委 員：私はまさにその新しい町の中に住んでいます。同じ年代の方の集まりというグループはいくつかあるのですが、他の世代との交流が今全然できない、どうしたら良いのかなと今すごく考えてはいるけど、模索しつつ、何もまだできていない、という状況なのですね。だから本当にこれから先を担っていく人たちにたくさん聴いてもらいたいのですが、どうやって呼びかけたら良いのかな。若い人たちは、子育てしている人たちは土日が忙しいのですね。子供のお稽古事とか、スポーツの活動で試合があるといつて、うちの若い人もそうですが、なかなかこういうことがあるから行ってみないと言っても、今日はこれの試合があるからと、なかなか忙しい状況ですね。だから、そういう人たちをどうやって呼びかけて来てもらったら良いのかな、というのはすごく大変だと思います。本当はそうしたいのだけど、良い方法はないでしょうかね。

委員長：良い方法かどうかはわからないのですが、そういう少し若い世代にも関心を持ってもらうというところで、廊下のイベントなどで若い人や子連れで来ても楽しめるような、ということも考えましょうというのが前回までの話だったと思います。そういう意味でいろいろな層にもギブアンドテイクで企業なども参加していただくといったこと、答えになっているかわかりませんが、一例ですが。その他こういう感じだったら集まるとか、手があれば是非。市民のいろいろな団体などでも、若い世代がされている団体があるかもしれないのですが、そういうと

ころに声をかけていくことはできないのかなというのは、これも答えになっているのかどうか分からないのですが、是非お知恵をいただけたらと思いますが。

委員：先ほどの意見の中に子供たちの育成推進とありましたよね。子供たちの育成推進ということを表に出してですね、とにかくTX沿線については相当平均年齢が下がっていますが、一番高齢化率が進んでいるのは確か37パーセント、40まではいっておりませんが荃崎が一番高齢化が進んでいて、谷田部が一番少なく13。ちょっとかな、谷田部の中に入るTX沿線は若いけれども、旧集落に入ると荃崎と一緒になんですよね。ですからTX沿線の中で調べてみると若いお仲間同士でいろいろな農業体験に行ったり、そういう関係のところに応募されているというグループはありますね。ですから、そういうところに声をかけて、すべての方が集まるというのは不可能ですので、そういう方に声をかけるという努力をしていったら良いのではないかなと思いました。中心になる人はどうしてもやりたいことをやるという、どうしてもこのことをやりたいという自分の生きがいみたいなものがある方は骨を折りますけど、そうじゃない方は彼らがやっているのだから、ということで離れると思うので、それはそれで良いと思うのです。そういう方で進められれば良いのではないかなと思います。

委員長：やはり若い世代と先の話の内容だというところで、来てほしいのですが、内容的にどれぐらいが関心を持ってくれるかというのは、まだ誘い方というか、どう内容を伝えていくかということも、どこに伝えていくかだけではなくてどう伝えていくかということも大事なことなのではないかなと思います。

委員：フォーラムをやるわけで、フォーラムの趣旨があるわけですよね。まずは趣旨を外さないことが一番大事だろうと思うので、人を集めることも大事だけど、趣旨を外してまで集める必要は無いのではないかと。ただ難しいのは、僕は医師会ですけど、医師会とか行政とも連携していろいろな講演会、啓蒙活動に行っておりますが、本当に必要な人はなかなか逆に来られないと思います。やはり身体的に問題があるので医療の場合には。次に、予備軍の人たちで結構元気な

お年寄り是非常に参加してくれるのですね、我々いろいろな会議やりますと。ただ今回このフォーラムというのがもう少し広い対象だろうとは思いますが、その人たちにどうやって参加してもらうのか、それから先ほども出ていたように、おそらく荃崎地区などは、結局今支えている人たちは多分次は支えられる人たちに回るけど、その後ろがいない地区なのですよ。それでいくと、かなりスピードアップして調整していかないと、もう間に合わなくなってしまうと思います。つくば市はあと 10 年くらい人口が増えると言っていますが、逆に言えば高齢化はやはり進むわけで、おそらく人口構成は全く変わってきてしまうだろうと思います。僕の経験で県北地区を見ると町全体が風前の灯火と言っては申し訳ないけど、高齢化率 40 パーセントを超して、50 パーセントという地域になっていて、その地域は町おこしをどうするかという、もう医療と介護を中心とした町づくりでできちゃうわけですね。比較的山間部なので、逆に言うと人を中心に集めやすいというメリットがあると。逆につくばは真っ平でどこにでも住めるので、地域包括ケアという考えで住み慣れた地域でやっていきたいと思いますという、僕などは訪問診療していると非常に効率が悪いのですね、やはり。片道 10 キロなどざらで、下手すると上郷から行って今度土浦の方まで行って、2、30km 走ってしまうことがあるわけですよ。これがおそらく均一の内容を維持するのは非常に難しいなという……。よく富山などでやっているコンパクトシティなどは、ああいう豪雪自体は除雪しないと住めないから町の中に集められたわけだけど、つくばは特に温暖化が進んでいると冬もそんなに寒くないし住めてしまいますよね。そのときにその人たちをどういうふうに生活を支えていく必要があるのかな、というのを考えていく必要があると思うので、今回多分フォーラムでも最終的には地域で住み慣れた所でずっと続けていくのが本当に良いのか、もう少し効率良く、医療介護を中心とした町づくりをして、高齢者の方たち、ごみ問題などいろいろな問題があると思うのですが、今厚労省の方が出してくるのはどちらかというと大規模団地の都市型高齢化で、比較的効率良くサービスが提供できる所で考

えられていると思うのです。つくばのような地区で、なかなかそれは……。だから、先ほど山中先生もおっしゃったように、つくばの地区はいろいろ混在しているので、ここで上手くやればいろんな所のモデル地区になり得るのだろうとは思いますが、逆に言うと難しいなという気がして。今回のフォーラムも第1回なので、人を集めるということも大事だけど、それ以上にきちんとしたフォーラムで、方向性をもう一度みんなで確認した方が良いのではないかなと思って、聞かせてもらいました。僕の意見ですけど。

委員長：広報ということで言ったら、例えばこういう方に来てほしいなど、ポスター等いろいろな周知をしていくのですが、デッドラインは、フォーラムが5月31日だと、どの辺になるのでしょうかね。いつぐらいまでに固めていくのか。2月の終わり、3月の終わり。区長や民生委員などには連絡しやすいと思うのですが、それ以外のところをどう伝えていくかというところを決めてかないといけない。

事務局：市の広報誌ですと前もってということで、2月14日までの依頼というのがあるのですが、それ以外でしたら、2月下旬から3月中の依頼で大丈夫かなと思っております。

委員長：広報誌は大事なので、今日を外すと、今日ある程度決めてかないとちょっと厳しいとは思いますが。

委員：大学などは、こういうイベントに興味持つ生徒、結構いるのではないのですか。

委員長：一応もう声かけています。あと私の研究課長にはこの前お話して、もっと市と協力し合えるという中に、こういうことも盛り込んで話しておりますが、何分学長が今年のパラリンピックのことでものすごく燃えているので、土曜日や日曜日も集中講義を入れて、7月からはボランティアできるように空けようというので、それでもいろいろやっ払いこうと思います。もちろんそういうことで、いろいろ交渉はしていこうと思います。大学の方は引き続き声かけさせていただきます。それ以外、いかがでしょうか。

委員：少しよろしいですか。多分社協さんの方でやってくれるとは思いますが。具体的に、例えば区会など自治会のリーダーの方に声をかけたらどうか、あとはシルバークラブの方の代表というかリーダーの方、それからサロンを運営されている、ふれあいサロンなどの具体的な世話人さん、それから居場所づくりをやっている方のリーダーの方、こういうところは関心もお持ちですし、是非、具体的な情報としてお伝えした方が良いのではないかと、思いました。

委員長：すみません沼尻さん、ホワイトボードが良い所にあるので、そこにメモを書き出してください。今、最初に挙げた区長、民生委員、シルバークラブ、サロン、それから大学は私の方で若い人はさせていただきます。あとその外ですね。協議体に参加していただいた方などは、伝えられる機会はあるのではないですか。協議体も被っていますか、ほとんどメンバーは。そうでもない？ では協議体の集まりはまだなので、スケジュールを見るとお会いする機会があると思いますし、そこと、あと今日社協の皆さんがいらっしゃっていますが、ボランティアの登録などは、そういうところで何か伝えることはできないですか。

社 協：ボランティアセンターの方で、団体と個人を把握しているので、そこに案内を出すことも可能だと思います。また、ふれあいサロンの方も、現在 98 サロン活動しておりますので、可能かと思います。シルバークラブも、つくば市で 138 ですか 9 ですか、それくらいあります。

副委員長：ケアマネジャーも是非、声かけをさせていただければと思います。地域ケア会議の課題もそうですし、地域づくりと一緒に考えられたらと思っているので、ケアマネジャー全部だと 200 人くらいいるのですが、そんなには来られないと思うので、声かけてもよければ是非、と思います。

委員長：その外いかがでしょうか。

委員：今訪問看護していて、在宅の教育、筑波大やつくば国際大など、かなり在宅看護なんてすごく積極的で留学生なども来ているので、大学の看護学生なども、病院もそうですが、かなり成島先生などと一緒に往診したり訪問看護したり

しているので、市民のところまではなかなか理解できないと思います。

委員：少しよろしいですか。いろいろな意見が出て、いろいろな人に声をかけることは大事だとは思いますが、もう一度振り返って考えると、200 人しか入らないわけですね。関係者会議でもないような気がするのですね、これ。住民が参加しなきゃいけない。介護とかそういうケアを必要としている人たち、あるいはそれを手助けする一般の人たちが参加するというのが抜けちゃうと、また少しフォーラムの意義が変わってくるような気がするのですね。そういう意味で言うと、広報はもちろん大事なので、つくば市の広報誌もあるでしょうし、一般の回覧がありますよね。回覧で回してもらえれば、全住民に一応行くかたちになっていますので、回覧はやった方が良さそうな気はするのですが。ポイントは、事前の予約登録を取るか。そこをどうするかが、ポイントとしてあると思うのです。事前登録をやるやり方もいろいろあると思うのですね。

委員長：事前登録した方が良いか、その辺私は経験が浅いので、いかがでしょうか。

事務局：やはり申込みは受けたいと思います。人数の把握が欲しいかなと思いますが。

委員：そうなってくると、やはり一番大事なのは、分かりやすいタイトルだと思います。

委員長：事前受付はあらかじめします、と。それで、部屋なども増やす必要があるのかということも考えていくということで、今どこに声かけたら良いのかということで案を出しましたけれども、あっという間に集まってしまいました。シルバー人材も仕事だけではなくて、いろいろやりがいなどを求めて、そこへも声かけていただければ違うと思うので、たくさん声をかける当てはあるので、すると次はそういう前持った申込みになるかなと思いますので、それは皆さん意見としては取りましょう、と。

委員：募集するにあたっては、やはり題名が分からないと、意味合いが分からないと、参加するにしても参加できない方が出てくるのではないかと思います。

が。大事なのはタイトルかな、という気がします。

委員長：それでは次、タイトルなのですが、前回「お互い様」というのはいろいろな意味があるので、別の言葉が良いのではないか、という意見もございましたし、「生活支援」や「地域ケア」となると少し固すぎる、ということがありました。それでメールでも短い期間でしたが、案を考えてきてくださいということがありますが、ご意見がもしございましたら。ちなみにキックオフのときは「地域の支え合いフォーラム」ですよ。ね。「地域の支え合いフォーラム」という名前で、この中の委員の方にもパネリストで参加していただいております。

委員：タイトルを決める場合、先ほど子供たちの育成支援という、包括支援の中のひとつで、確か今年の成人者が120万人でしたよね。我々団塊の世代のときは275万いたのですよ。確か昨年度は86万4千、90万切ったのですね。そうすると子育て支援というのは、やはり包括支援の中の大事な仕事、民生委員をやりながら高齢者対策ばかりが順番を占めているので、社協さんの会議のときも、子育てというのは非常に大事な分野ではないかということには言わせてもらっているのですが、それを外すか外さないかというのは、今回決めるにあたっては大事なことだと思うのです。その辺をまず決めていただいて、やっていただければと思います。もし子育て支援ということであれば、こども食堂がぽつぽつとつくば市内で結構できていますので、是非子供たちの、貧困という言葉は使いたくないのですが、そういう子供たちを援助していくグループにも、子育て支援ということがあるのであれば声かけていただきたい。少し長くなって申し訳ないのですが、集め方は広報誌が第一段階で、そこで、小原さん広報だけでは集まらないよね、200人もね。

委員：集まらないですね。

委員：ですからそれは第一段階で、第二段階ではターゲットを決めたら、いろいろな意見が出た方から声をかけると、恐らく200人は超えるのではないかなと思います。以上です。

委員長：「子育て」というキーワードも、どこかに散りばめているのか、という話なのですが。どんどん自由に、ですね。今日、本当は発言したいけどまだ発言していないという方、いるのではないかと思いますのですが。

委員：ターゲットを絞り込んだほうが良いね。

委員長：次、この会議の趣旨に外れないところで押さえないといけないと思いますよね。タイトル案が出ている、そういうのが出ていたのですね。

事務局：今日いただいたタイトル案を、こちらでまとめております。

事務局：すみません、まだ追いついておりません。今一生懸命記入しております。

事務局：タイトルでいろいろな意見がある中だと思いますが、併せて中身がどうなるのかによるので、取組発表で例えば先ほど言われた子育ての人の発表などが入ってくることになると思いますので、取組発表2個か3個か、中身を何にするのか、あとは厚労省の老健局長の発表のテーマを、今かなり狭い範囲のこの事業にイコールの内容にしていますが、もう少し広げて、2025年という単語を入れるのか2040年などを入れて子育ても含めて見ていくのか、そちらも併せ持ってご議論いただいた方が良いかな、というような感じです。

委員長：ありがとうございます。

委員：市長が来てお話をされると、多分SDGsのことをおっしゃると思います。だから、その一番最初が誰も見捨てないということなので、それをうまい具合に入れられたら良いのかな。結局はそういうところを目指して助け合える社会を作っていこう、そういう住みやすいつくば市にしていこう、という大きな目的があるわけなので。今突然思い浮かんだのですが。

委員長：ありがとうございます。

委員：このフォーラムに参加できるのは、つくば市民限定ということですか。

事務局：特に、そこは無いかと思います。

委員：だとすると、例えば常陽リビングなど、広く皆さんが読んでくれるようなところに載せるというのも方法かなと思ったのですが。

事務局：そうですね。予算はとってあります。

委員：つくば市の事業というと、どうしてもつくば市民だけが参加を許されるというようなイメージがあるのですが、今回のフォーラムについては、どなたでも受け入れる？

事務局：はい。そういうスタンスで考えております。

委員長：本当の最初の案だと、ものすごく大きくやろうということでNHK茨城まで行ってしまおうといった感じだったのですが、ただ一方で誰に聞いてもらうのかと、一番大事なのは市の中の地域の皆さんに聞いていただくということで、場所もつくば市役所でということになってきて。ただ、近隣への勢いは縮小しましたが、つくば限定ということではないのですね。そういうことで、申込書の書き方などにもよるとは思うのですが。では、タイトルを紹介してもらってよろしいですか。読み上げた方がわかりやすいと思うので。

事務局：上から申し上げます。

- 1 「支え合いのまちづくり つくば」、
- 2 「住み続けられるまちづくり つくば」、
- 3 「みんなで作ろう 地域の支え合い助け合い活動」、
- 4 「みんなで考える 地域包括ケアシステム」、
- 5 「支え合いのまちづくりフォーラム in つくば」、
- 6 「地域丸ごと支え合いフォーラム in つくばシティ」、
- 7 「共生社会の実現に向けて つくばシティ」、
- 8 「生活支援体制フォーラム」、
- 9 「誰も見捨てない～」。

委員長：いかがでしょうか皆さん。趣旨からすると、もともと生活支援というとし難しいかなというので、それをもう少し分かりやすくしてくということと、あまり広げすぎないというのと、その辺りでどうかなと。上から三つは趣旨に沿っているし、5番目6番目あたり、そこに1番下の見捨てないなど、これが住み続

けられるという持続性の何々と少し関係しているかもしれませんが、そんなところですが。参考にして、いかがでしょうか。

委員：タイトルは長くない方が良いでしょう。短く。今載っている文面を、うまいこと小さく説明のように書けば、と思いますね。そういう意味では市長はこの前こう言いましたよ。つくばの明日が見えてきた、と言いましたよ。R 8のときに。

事務局：繰り返しになるのですが、対象者をどこまでの範囲でイメージするかを決めないといけなくて、先ほど言われた1、2、3などは、やはり高齢者に限らなくて幅広く全部をいってるように普通の人は見たら思いますので、今後の20年先のつくば市の少子化も含めての議論をしそうな感じなので、少し広げすぎかなという気もしつつ、そこをどこまで視野に入れていくのかということで、今で言う4番の地域包括ケアシステムとか、7番共生社会、8番生活支援体制という、高齢者をメインにしたような話だというのが分かるは分かるのですが、その分狭い感じもあるかもしれない、ということだと思いますので、高齢者をメインターゲットとしながらいくのかどうかというのだけは、まず決めないといけないかなと。そして、途中で議論出ましたけど、その対象者たちをどの程度、幅広い人メインでいくのか、一般の方は来てほしいけどどうかな、というぐらいの感じでいくのか、というところも少しすり合わせていかないと、その二つの射程が決まっていけないと、なかなか、題名と演題の取組発表も決まっていけないと思いますので。その辺を皆さん議論いただければと思います。

委員長：いかがでしょうか。趣旨などからいったら生活支援など、そういったものなのですが、ただ、それが少し分かりづらいということとかみ砕いていただいたものが上の方になるのですが、それだと少しいろいろな人が集まりそうということになっているわけですね。短い方が良いでしょうか。

委員：今部長が言った2025年の先まで考えた時には幅が広げられる、ということをおっしゃったと思うのですが、2025年を5年ごとに目標を決める、ということだと思うのですが、ですから今回は例えば高齢者対策にするということであれ

ば、そういう題目にした方が良いのではないかという、あまり幅を広げない方が
良いのではないかなという。そういうことですね。

委員：相対的には、やはり皆さんの生活を全体的に良くすること、今から始まる
成島先生の医療会議含めてですね、我々はそういうのを提供しながら、自分の生
活の中に助けてもらうという、助け合えるようなシステムを作っていくというの
が、今回の定義だと思うのですね。ですから、そういう意味合いにおいては、や
はり大きな意味でやってもいいとは思いますが、ただ、発表する側から言っ
たら、専門的にいろいろ、先生だから医療関係は。我々は生活関係、区長は区会関
係、シルバー関係、自分のやっているところは、専門的なところは重点的な話が
できるのですが、じゃあ、子育てのことになったら民生委員さんや私はよく分か
らない、そういうところが少し問題なので、その辺を少し絞っていただかないと、
発表する人がじゃあ誰になるかといったときに、その方が非常に困惑するのでは
ないかな、と思います。そういう意味では、もう少し絞り込みは必要かなと思
います。事業としては大きな事業だと思うのですよね。底辺の大きい事業だと思
うのですが。全部が全部やろうとしてもなかなか無理です。それと、どうい
うことをして、我々にどういう影響があるのだろうかというようなものを、皆さん
今から教えてくわけでしょう。教えていく状態の中で、難しいことを最初からや
ったら、全然何の意味も持たないのではないかと思うのです。ですから、でき
るだけ集まっていたけるようなやり方を審議していただいた方が良いのではない
かという話ですが。あまり難しくしないでですね。

委員長：何か意見ありますか。この中で。

委員：3番目あたり良いのではないですか。

委員長：タイトルが決まって、その後、短い説明というか、いろいろな候補である
と思うのですね。それもそこで、あ、このことだったのか、ということで、分か
っていただける部分もあると思うので、サブタイトル・・・。

委員：支え合い、助け合い、ということですよ。それが分かるようなかたちで

発表されるのであれば、良い基調講演になるのではないかと思いますのですが。今社協さんの話で出ましたが、地域では、結構社協さんと同時に進んでやっているところが結構ありますので、委員長がお話しているような部分が、だいぶ被っているところがありますから、そういう面を含めると、全体的な話は良いのではないかな、助け合いの話は良いのではないかな、とは思いますが。1 番分かりやすいし、ごみ捨てにしても何にしてもそうですし、代わりに行くことも助け合いですから、そういう小さなところから発展させれば一番良いのではないかなと。なかなか難しいですね。簡単なようで難しい助け合いだと思いますけども。

委員：峯本さんがおっしゃる通りだと思いますのですが、ボランティアというのは、やはりすごい精神性の高い活動だと思います。よく最近、ボランティアの最初はどうも神戸の震災がスタートらしいのですが、昨今は自然災害でボランティア活動すごく盛りますけど、やはりそれを継続してやっていくのはどこも大変だと。恐らくこういう生活支援の体制というのは、継続可能かどうかポイントになると思うのでね。どうやって継続してくかというのがポイントになると思うので、だから長いというのであれば、「みんな作ろう 地域の支え合い」で、「助け合い活動」はそのサブタイトルで、もう少し説明するようなものを入れてもいいのかもしれないし、その辺りは皆さんのご意見だろうと思いますが、とりあえずスタートとしてはこれでも良いのかな、と個人的に思いますけど。

委員：すごく難しいのですが、3 番は、言葉は分かりやすいと思うので、「みんなで作ろう つくばの支え合い」とか、「つくば」と入れた方が、他の地域の方もあるかもしれませんが、「つくば」と入れた方が良いなと思うので、「みんなで作ろう つくばの支え合い」、「助け合い活動」はやはりサブタイトルで、「ずっと続けられる助け合い活動」とか、分からないのですが、持続できるようなサブタイトルを入れれば良いのかな、と少し思いました。

委員：今言葉が浮かんだのですが、「みんなで作ろう 支え合えるまち つくば」。

委員長：検索してみたら同じのがありました、というのはちょっと。スケジュール

で、それぞれのテーマが決まってくると、何をやるのかなと見えてくるので、皆さんの思いなどは短い説明といったところに、今日頂いたものなどは入れさせていただこうと思いますけども、どうですかね。いろいろ出てきた中で、短い時間ではありますけども、今赤字になっているところ出てきましたが。これでよろしいですか。

委員：「作る」というのは、あの漢字じゃない方が良い。あの漢字は少し違うと思う。

委員長：「創造」の方ですか。

委員：ひらがなでも良いし、「つくる」だったら「創造」の「創」が良いかなと思います。

委員長：どうもありがとうございます。休憩なしでここまで来てしまったのですが、大丈夫ですかね。

事務局：もう少し決めないといけないですから、取組発表の2人とか3人はどういうイメージで、例えば今日のこのメンバーの中から、後は委員長が指名する、といった感じで良ければ。

委員長：検討事項の中に入っているので、今部長の方からお話がありましたが、タイトルこれで決まって、タイムテーブル、場所もあります。それで発表の次は、今部長のおっしゃった事例の発表や内容になるのですが、こちらについて、是非この人が、又は自分はこういうことをやっているのでは是非、というような、そういう自薦他薦などありましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。二つくらいでいこうと思っています。三つだと多分はみ出てしまうのではないかなという、皆さん思いがあるので。

委員：団地というか高齢化が進んでいる所というのは、住宅団地が多いので、その中の一番形になっているなと思っているのが、実は桜ニュータウンですね。桜ニュータウンの中の活動というのは、もちろん自治会活動があり、それから防災組織ができていて、居場所ですとか、サロンですとか、そういう活動も非常に

積極的に行われている。最近は高齢者の移動支援のシステムを作られたということがありますので、是非そこをコンパクトに、全体の地域での活動という意味で分かりやすいので、皆さんに知っていただいて刺激材料にしてもらうのがいいのではないかな、と思います。

委員長：桜ニュータウン、先ほどいただいたのですが、一つ挙がりました。ありがとうございます。その他いかがでしょうか。やはりいろいろな特色ある、背景が違ったりする所が良い。それでは一応打合せをさせていただいたのですが、事務局と委員長と副委員長でいろいろ出た中で、案としては。

事務局：私どもの方でも、桜ニュータウンを推したいと。この間の 40 周年のところにお伺いさせていただいても、非常に自主的な取組がなされているなという印象がありましたのと、それともう一つ、こういった地域の取組、集まりを考える上で、まず防災のところから入られた真瀬地区の方などもいかがかなと。防災が住民の方にとって非常に身近なところだということからまず会議を始めて、そこから支え合いの方にいろいろと話を進めていっているという、そういうところでも真瀬地区の方の取組などもいかがかなと考えました。突然で申し訳ございません。

委員：それ言おうと思っておりました。真瀬地区はね、いろいろな団体を巻き込みながらやっていますから。飯田さんのところですよ。賛成です。

委員長：という原案だったのですが、委員の中からも桜ニュータウンに推薦ありまして、真瀬地区も推薦、両方あって事務局と私たちだけではなくて委員からも推薦がありました。こちらで今回はやっていただこうと思うのですが。案としては、いかがでしょうか。

(賛成の声)

ありがとうございます。じゃあお二方、是非よろしく願いいたします。

委員：桜ニュータウン但野ですが、ご推薦をいただいたので、我々の活動内容を発表させていただこうと思います。桜ニュータウンは多分今年高齢化率 49%、ま

もなく限界集落 50%に近づいているような集落というか団地ですが、その中でもいろいろな取組をやっておりますので。また委員の皆さんに後で配りますが、去年の 11 月 9 日 10 日、桜ニュータウンが去年 40 周年を迎えました、第一期分譲から。1979 年から。それで、町全体の活性化ということを目指しまして、40 周年記念行事というのをやらせていただきました。市長にも参加をいただいたのですが。その時の記念誌ができましたので、これお配りしますから、見ていただければと思います。桜ニュータウンの 40 周年記念行事の結果だけでなく、当日の講演会の中身などについても触れておりますし、一般の文集というかたちでも作りましたので、見ていただければと思います。あと 40 年間の歩みを、自治会活動の中で桜タイムスという広報誌があるのですが、1 号から 300 号まで振り返りまして、団地の歴史をもう一度解き明かして年表として 12 ページぐらい出ておりますので。参考になればと思って持ってきましたので、見ていただければと思います。以上です。

委員長：ありがとうございます。5 月 31 日まで是非コンディションを整えていただいて、またそういう思いをコンパクトに 15 分に収めて、質問を受けられるような感じでお願いします。どうもありがとうございました。

事務局：委員長すみません。市報に載せる文面等は、委員長・副委員長と少しお話をさせていただいて。

委員長：メールで、こういうものでいこうと思いますということで、お渡しさせていただく感じでよろしいですか。

事務局：はい。よろしくお願いいたします。

委員長：意見があればそういったところに開示いただけたらと思います。最後に分科会のことですが、今回のフォーラムでは分科会が無くなってしまいましたが、今出ている企画はもったいないですし、そういう一つ一つを単独で、来年またこの委員の改選はありますけども、改選後などに単独で企画ができたらかどうか、という話が出ています。認知症の人のための町づくりといったものは、先ほどお話

したとおりここだけではなくて委員会などともコラボしてやっていく、そのような案が出ています。ということで、それは今後継続審議としてやらせていただけたらと思います。今日は情報提供ということで。以上がフォーラムについての協議になります。

事務局：老健局長の講演は、この題名で良いということでしょうか。

委員長：まだ仮題なので、これで固まってきたら連絡を取り合っていこうと思います。

事務局：取組発表が今の2事例ですと、フォーラムの内容が、この生活支援体制整備事業がほとんど、といった話になってきますので、おそらく参加者もそういった方々中心になることからテーマとしてはまさにピッタリなので、逆に局長の話をもう少し広げたかたちでいくのなら、3組目の取組発表をして、地域だけではない別の、もう少し違う観点の人も入れるなどをする、というやり方もあると思いますが。この流れで行くと全部が一貫しているので良いかなと思うので、あとは人集めをしっかりと頑張らなくてはいけないだろう、というところとセットになりますが。

委員長：ありがとうございます。今流れを確認していただいたのですが、流れからするとこのテーマで大体良いのではないかとということで、自分として考えたのは、仮案をこうやって示させていただいて、それで最終的に考えていただく、といった感じで思っていました。

委員：すみません最後に、このシンポジウムの流れですが、先ほど水野部長のお話の後に、生活支援の現場でのお話をここ40分取るということでよろしいのですよね。

委員長：それは質問の時間をもう少し延ばしたいというようなこともあったので、そこを40分ではなく、もう少し連動してやるので少しコンパクトに、35分や30分になると思うのですが。是非そういうことでやっていただければなと。40分にはならないくらいの感じかなと。プラス5分でも増やしていくということですよ

ね、先ほどの。

委員：増やすというのは、質問の時間ですか。

委員長：質問の時間を増やすという。質問の時間をもう少し欲しいという。

委員：30分でも結構長いかな、聴いている方は、と思いました。

委員長：短くしてしまう？

委員：どれくらいの内容になるか分からないのでなんとも言えませんが、聴いている方だと、30分は結構長いなと。人が変われば、いいのかな。

委員長：内容は変わると思うのですが。いかがですか。

委員：同意見で、取組はとても興味があって聴けると思うのですが、部長と生活支援が長いのがちょっと。20分くらいの方が分かりやすいのかな、と思ったところです。まあやり方ですね、きっと。

委員：具体的な話だと、多少長くても聴いていただけるのですが、理念的な話だと、やはり30分は少し長いかなと。聴いている方の立場としては、と思いました。

事務局：20分で。

委員長：それでは今20分でどうでしょうという話がありましたので、ただこの辺はまだ予定なので、実際にまた考えて少し変わってきて、流れはこれで決まりましたので、それから始まりと終わりですかね、その辺は決まってきたと思いますので、実際的なところはまだこれから詰めていければと思います。よろしいでしょうか。この後、地域ケアのことも移っていかなくてはいけないのですが、予定ではこの後これで出られるという方もいらっしゃると思いますし、自分も今日は4時10分くらいには出ないとまずいのですが、いったん休憩を取った方がよろしいですかね。

事務局：いや、もう時間が無いので。

委員長：続けていってしまいますか。そうしましたら続きまして、地域ケアの内容に移っていきたいと思います。

それでは地域ケアの会議の方ですが、最初に報告事項で事業報告、こちらの資

料 4 番を基にお願いできればと思います。次々に申し訳ありません。それでは事務局の方お願いします。

(2) 地域ケア会議

事務局：配布資料に基づき説明。

以下、主な意見等

委員長：ありがとうございます。今、事業報告資料の 4 と移動支援のことについて前回経過がありましたが、さらにその経過の報告で資料 5 のことも関係していますが、その辺りを触りだけ説明していただいたのですが、資料の 5 の方でまとめられた地域ケアから出ている課題が、移動支援とごみ問題と、それ以外のものについては 8 ページからでしょうか、地域とのつながりや見守りのチーム作りなど、火の後始末等による火事の不安や対応など、その他 c が相談窓口の周知、d が緊急通報システムの活用、e が家族や地域の方に対して認知症の理解を深める、f が医療が必要な人への十分な支援が伴わない、こういうようなものが出ていたわけですね。それで最初に取り組んだのが移動支援、ということで、この前これ大きな問題ですということで次検討していきましょうとなったごみの問題、ということで、それぞれ今他の委員会や仕組みも含めて、どんな取組が行われてきたかということが資料に記載されていると。

事務局：今回 12 月までの報告も載せたので、簡単に事例の傾向をお話させていただいたのですが、資料 5 にある移動支援については、前回の会議の後に、取組を保持させていただいている部分もありますので、そちらの試験運行についての経過報告ということで改めてさせていただけたらと思いますので、こちらは生活支援体制整備事業の担当と一緒に進めている事業ですので、松尾から試験運行についてのご説明を皆さんにさせていただけたらと思います。

委員長：時間が短くなったので、かいつまんでお話するのが大変だったと思うのですが、次として、移動支援の取組の経過状況ということで資料5の2ページ、課題解決に向けての取組、移動支援というところ、こちらをお願いいたします。

事務局：配布資料に基づき説明。

以下、主な意見等

委員長：ありがとうございます。もう少しまだ試験運行を続けられるということで、今挙がっているいろいろな意見をご報告いただきました。これは、ご意見をいただいた芥川委員からは是非コメントや意見を頂ければと思うのですが、実際車両を運航していただいて。

委員：元々施設はデイサービスをやっていて、デイサービスが朝と夕方の送迎で、車両が日中フリーになっているというところから、地域貢献も併せたかたちでの考えだったのですが、今つくば市内というか介護現場の状況として実はすごく人手不足であって、デイサービスの送迎などもシルバー人材さんをお願いしていたりして、要は施設の職員ではなく、施設で直接雇用している高齢者という状況でやっている中で、体調不良時の問題であったりとかトラブルに対応する、というところで感じたところはすごくあります。これはお試しだったので自分も一緒に行ってみたのですが、自分は土浦の人間なので、道が全く分からないという……。それは、お店などについては慣れれば、と思うところと、ボランティアさんの付添いに関して、その人の道案内と対象者の把握など、そういうところを詰めていかないと、今回は包括の方が添乗で来てくれたのですが、もう事前に面談もして、本人の家も分かって、それで付添いだったので家もスムーズに行け、本人とのコミュニケーションなどもスムーズだったのですが、今後ここに課題で載っているような点に関しては、まだ詰めていかななくてはならないかな、というところです。

委員長：ありがとうございました。それではまだ試験運行ということなので、今の

問題点も踏まえつつ、次回またご報告いただいて、その時にしっかりと問題点を詰めていきたいと思います。よろしいでしょうか。では続きまして、新たに検討する課題として挙げられましたごみの問題について、審議事項となっていますが、同じく資料5の次のところをご覧くださいながら、それではまず介護支援専門員意見交換会での報告について、お願いいたします。

事務局：配布資料に基づき説明。

以下、主な意見等

委員長：いろいろ出てきていますが、流れとしては、報告を踏まえて、一部第2層の協議体で話し合いをしてみた、ということで、それについてお願いいたします。

事務局：配布資料に基づき説明。

以下、主な意見等

委員長：審議ということですが、結構継続していく、ということですね。そうしましたら、こういったごみの問題について、いろいろな関係者に聞いてみると、いろいろな問題点などが出てきたのですが、前回、環境衛生課の皆さんにもご協力いただいて意見交換したらどうか、というお話がありました。今日は担当の方が来ていらっしゃるのですね。こういった地域でごみの問題が出てきているのですが、環境衛生策課の方で、取組の中で、いろいろと感じていることなどを少し情報交換させていただけたらと思うのですが、お願いいたします。集積する上で。

環境衛生課：私、環境衛生課大野と申します。よろしくお願いします。今のいろいろな事例や問題点として挙げられた部分について、私たちの方でもご相談を頂いたりすることもまれにあります。集積所自体は、自治会さんで管理されていたり、自治会に入っていない方で作ったコミュニティで管理されていたりという部分

もどうしてもございますので、それぞれによって出し方のルールのような縛りは確かにあると思います。

事務局：個別収集というか、2個以上だったらオーケーという話を。

環境衛生課：そうですね。通常は区会で管理している集積所に出している方がほとんどですが、それぞれの理由で区会に入らない又は入れないなどで新しく集積場所を作ってほしいという場合は、個別収集というかたちでは対応できていなくて、以前はおおむね10軒くらいでの要望ということもあったのですが、なかなか10軒は集まらない、というと、個別でなく複数軒ということが条件なので、今おっしゃったように2軒以上あれば複数軒という考え方で、現在実施しているところもございます。

委員長：今のお話すみません。皆さん理解してくれているのですが僕は少し分からなかったのですが、何らかの複数軒での要望の書類等があるのですか、そうすると集積して・・・。

環境衛生課：ごみの集積所について市の方で設置しているのではなくて、使われる方々で設置していただいている現状ですので、最低でも収集車を入れるような場所であって、ごみの集積所を作る場所を借りて、その方の所有だという場合もありますが、そういったかたちでやりたいとご相談いただければ、現地の方に出向いて私たちが確認いたしまして、作れるか作れないかという協議をさせていただいております。

委員長：まず、区会で決めてある場所があって、そこにはごみを捨てることが無理なので、ということでそこ以外に何人かでこの辺に、ということだったら・・・。

委員：委員長、それも選択にあったのですが、うちの集落の中に団地ができて、そこが10軒くらいあると。うちの方の集落ごみの集積所を使わせてください、ということだったのですが、ちゃんとカラスがやれないように集落の人が資金を出し合って作ったものですから、最初料金等いただいてやったのですが、そうではなくて、その集落で独自に作ってくださいということで、それで市の方に

連絡すると見に来ていただいて、それが2軒以上で道路がきちんとなって場所があれば、ということですね。

環境衛生課：そうですね。周囲の方のご理解なども取っていただいて。そもそも収集車も入れないところだと、どうしても収集が無理になってしまいますので。

委員：一番簡単なのは、集合住宅、アパートマンションなどがあると思うのですが、これ一番小さいのは2軒とか4軒とかという集合住宅、4軒くらいのがありますから、そこに1個設置すれば、ごみの申請をすれば、不動産屋さんが一番詳しいと思うのですが、申請すると、そこに取りにきてくれるということ、だと思います。そういうことでよろしいですか？

環境衛生課：そうですね、共同住宅などの場合は、当然地域の捨て場というところ、その引っ越しの出入り等もありますので、やはりそれぞれが集積所を設けております。

委員長：区会うんぬんではなくて住民同士の合意の上で設置をして、それで連絡をしてやるというような、まずそういう仕組みの周知というのは各地域で、その上で、それでもやれないという問題と、知らないという問題等、やれない部分はサポートしなくてはいけないところがあると思うのですが、そのサポートの体制があるところと無いところというのは、あるのではないかと思います。

委員：役所に聞けばわかりますよね。私も前区長の時にその問題にぶつかりまして、環境課の方に行きまして、申請しました。どうしても組合に入りたくない、と。1軒だけでやりたい、と。ごみは収集していただけない、自分の庭にごみを捨てる所が当然ある、と。それを作ります、と。車も当然今言ったように集積車がそこを通れる。そうしたらその場合にはその1軒でもやりますよ、という承諾をいただきましたね、市から。ですから申請すれば、そういうかたちでできると思うのですが。区長をやっている以上、地区の統制もございますので、逆にその住民の方を説得して、区会に入ってくださいましたけれども、そういう問題が提示されたときに、区会と住民とのつながりを持てる一つの機会だと思って、チ

チャンスだと思って、交渉してみるのも良いと思うのですが、方法としては、件数が少なくても市の方では対応してくれるということは、言われました。ですので、問題は無いと思います。

委員：峯本さんの話であれば、具体的に、この会議の議論の中としては、要するに、ごみを捨てるのが困難な人、困難な人とは持って運ぶことができない、そういう人のために何ができるか、と。あるいは、どういうシステムを作ったら良いか、ということだと思うのです。今そういうお話であれば、個々の回収もしていただけると、個別に。それであれば、私も直接今ボランティアでやっているところがありますが、具体的に、高齢者の住んでいる所の玄関あるいは道路脇にでも置いておいてくれたら、車があえてごみの収集場所でもなくとも、置いてくれるというのであれば、皆さん非常に喜ぶことだと思います。それが可能であれば。

委員：指定を受けるべきですね。

委員：ですから、そういうかたちで、自治会なり区会なりのそういう関係性が、こうして届けてください、と。そうすれば、玄関前に置いておけば朝取りに来てくれますよ、と言えば、かなりの問題が解決すると思うのです。今私などが行っているのは、特に燃えるごみというか、生ごみなどが入っていると、どうしても結構重いわけですね。それが90歳のお年寄りが50m先の集積所に持っていくのはほとんど不可能な方もいらっしゃる、であれば、そういう玄関の前に置くことができるのであればね、そういうことを周知していただいたら、大体問題が解決するかな、と思いました。

委員長：時間がなくなってきたのですが、そうすると前々から出ていた、峯本さんから出ていた話だと思うのですが、地域ケアのケースの事例集を作ったらどうかという話があって、少し一部公開されたところもあるのですが、そういうものよりは地域ケアや生活支援体制整備でもこれから進む中で出てきた問題について、こういうところでシェアしたものを周知するような、そういうわかりやすいガイドなどを作っていった方が良いのかな、と少し思いました。そんなかたちでできる

ように、まだもう少し、今日これでわかったこともあるので、今日せっかく環境衛生課の方がいらっしゃって情報提供していただいて、また委員の皆さんからも頂いた意見で分かったこともあるので、そういうことを踏まえた上で、少し話し合いなどを進めて整理していったらどうか、と思うのですが。いかがですか。実際個別でも、区会で、区長さんなどでいろいろと話し合って、こうしたらどうかということが出てきたところであれば、車の入れる所だったらやっている所もあるという・・・。

環境衛生課：個別収集というかたちでは、対応はできていないのです。2軒以上、複数軒ということは、最低でも2軒は必要だということなので、個別に玄関前に置いておけば持ってくよ、というシステムではない。

委員長：そこは修正というか、2軒以上ということですね。

環境衛生課：そうですね。収集の場所、車も通れれば当然、通れないところは収集車が回れないので、玄関先というか、道路ではない敷地に集積する場所があるということが、やはりどうしても条件にはなると思います。

委員長：そういうことまではできるけれども、本当にそういうことができない場合に、自力で持っていけない人についてどうしたら良いか、ということなどに分けて、これからやっていただけたらと思うのですが。

委員：問題は委員長あれじゃないですか。認知症の方が、分別ができないとか、それをどういうふうに、どういう方がそれを見ていくか、ということだと思うのです。あと生ごみですが、きちんとしたものを作らないとすぐ回収車に来るわけではないので、カラスがいたずらをするのです。そうすると、すごく散らばりますから、これ大変ですよ。この問題は本当に解決していかないと。

環境衛生課：おっしゃるとおりです。玄関先に置いてすぐに取りに来られるのか、というと、それは地域地域によって業者さんの回り順もありますし、そのごみの量によって何時に行くよというお約束はどうしてもできない性質もありますので、朝8時までにお出しいただいたものを、収集業者が順に回って集めるよとい

う今のスタイルになっていますので、場合によっては収集車がいっぱいになって1回クリーンセンターに行くと、そこで1時間はロスしますので、家には何時に来てくれよというのはお約束できるものではありませんので、今おっしゃったように朝に出したのだけど道路状況やごみ状況で遅くなって、カラスが荒らしてめちゃめちゃになってしまう、という例は、確かに十分あり得ますね。

委員：すみません、ごみの問題は皆さん抱えていますけどね、環境衛生課のやり方は間違っていますよ、完全に。街自体が汚れますよ、今のやり方をやったら。そこで、僕がやっていること、荃崎がやっていることを申し上げますけども、ごみは利用者が作っているのです。出し合って。それでちゃんと手続きとったら市役所から補助金を頂いて、安いのでできるようになっているのです。で、区長は区に加盟しようがしまいが、ごみについては、区長の責任で街を綺麗にするように指導しなさい、そう言っているのですよ。で、2軒だから作る、3軒だから作るとか、そんなの辞めてください。そういう指導しないでください。まずそういう問題が出たら、区長に相談してください。あの地区で、あの家とあの家から困っていると言われたけども、それこそ市役所は困っていますよ。具体的に言ってくれたら区長が解決しますよ、それは。少なくとも僕はやります。でそのやり方は、私は今、つくば市の会長やっていますから。つくば市の、私を含めて6人会長いますから、これを徹底します。近いうちに集まったときに徹底します。いちいちごみ捨てる人のこと聞いていたら、町が絶対汚れますから。生ごみのために。まず区長に相談してください。それで、助け合いは生まれるわけですから。助け合いも誰もしない、と言うのであれば、その人はよほどおかしい人ですよ。と、私は思っていますので、もう少しみんなで相談してやってくださいよ、締めてくださいよ。以上です。

委員長：それは一つ、これからは小原さんが会長としてやっていただけるということだから、それやってみて、どうかという。それは経過を教えてください、ということですのでよろしいですかね。今日伺ってすごく良かったと思うのは、いろいろ

最初に問題点が挙がったのですが、今こういう方法がありますよ、ということで、市の部門の方もいらっしゃいましたし、市民や住民の団体の方もいて、いろいろな知恵を出していただきましたので、つまり、成功事例というか、そういうこともこういうことでうまくいきました、こういう方法がありました、というのを次集めていくというのも良いのではないかな、と少し思いましたね。今まで問題点も挙がったので、こういう取組をしていますとか、こういう考えでこうやっていますなどを。

委員：一つ課題があるのが、市役所の窓口です。これクレームではないのですが、いろいろな声を聞くのですが、市役所の窓口で、私が今話したことを次も同じ話を持ってきた時に、担当が違くと話が違う場合がある。もう一つは、一からまた説明しなくてはいけない、人が変わると。ですから、そういうところの窓口ですよ、そういう方が結構多いのですよ。行政上、少しそれは問題だなと、私はいつも思うのですが。お願いすると、必ず1回では窓口を通らない。そういうところがありますので。今の1戸の話は嘘じゃありませんので。私が直接行って担当と一緒に話してそれで1戸ではダメだということで、もう1回戻ってその方に納得していただいて、それでまた、私の方がサポートするというかたちで、集積所に持ってくるようなかたちにして解決した、という問題で、2戸と言いましたけど、その時には1軒でも作ります、と言いました。集積所を庭に作ればという話、元に戻ってしまいました。そういう窓口で受け付けた人が、人によってそういうふうに変わっていくとしたら、少し問題がありますので、その辺を統一していただきたい、という部分はございます。

委員長：それは委員会として要望いたしましょう。では、よろしくお願いします。それでは、時間が来てしまいました。以上で、その他は。閉会の前に次回ですが、事務局から話が出るかと思ったのですが、フォーラムもありますし、この感じでフルに二つの会議をやる、というのは、あまりに重いのですが、フォーラム中心とか生活支援一つでも、短時間でやるというか、半分の時間でやるという会議な

どは、出していただきたいなとは思いますが、いかがでしょうか。そんなには長くなく短く。

委員：今の話で良いのですが、この間も少し話し合ったのですが、2層の会議が非常にこれから充実して、頻度を重ね、コーディネーターの方も入ってきた、という状況で、いろいろな案件がこれから動くわけですね。そうすると、この第1層の会議も、今までのように年3回というペースでは、少し足りないのではないかな、と私は思います。もう少し頻度を上げて、回数を最低でも四半期に1回やるぐらいのペースでやっていかないと、意見交換が成立してないような気がしますので、その辺をよろしく願いしたいです。

委員長：季節に1回はやっていこうと。あと、インフォーマルなことなども時々はやらせていただくということですが、よろしいでしょうか。それから、任期がだんだんと迫ってきていますので、2層が整ってきました。それで組織という点でも、そうした意見も取り入れていかなければいけないので、その点なども次の組織をどういうふうにしていくのか、なども話し合っていく必要があるのではないかと、私自身は思っています。以上で、事務局にお返ししたいと思います。

事務局：ありがとうございました。次回の会議については、また調整してご連絡したいと思います。以上で、本日の会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉会（午後4時30分終了）

令和元年度 第3回

つくば市地域ケア会議

つくば市生活支援体制整備推進会議

日時：令和2年(2020年)1月23日(木)

午後1時30分から4時まで

場所：つくば市役所

コミュニティ棟1階 会議室1

— 次 第 —

1 開 会

2 報告及び協議

(1) 生活支援体制整備推進会議

ア 報告事項

(ア) 事業進捗状況(資料No.1)

(イ) 社会福祉協議会への生活支援コーディネーター委託経過
(資料No.1)

イ 審議事項

(ア) フォーラムについて(資料No.2、3)

(内容、対象、タイトル、タイムスケジュール、場所、
役割分担ほか)

(2) 地域ケア会議

ア 報告事項

(ア) 事業報告(資料No.4)

(イ) 移動支援の試験運行の経過(資料No.5)

イ 審議事項

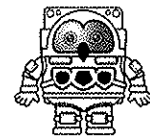
(ア) ごみ問題について(資料No.5)

- ・ 介護支援専門員意見交換会での報告
- ・ 上記報告を踏まえた第2層協議体での話し合いの報告
- ・ 環境衛生課との情報交換

(3) その他

3 閉 会

令和元年度
第3回生活支援体制整備推進会議
～令和元年度各地区の取組状況～

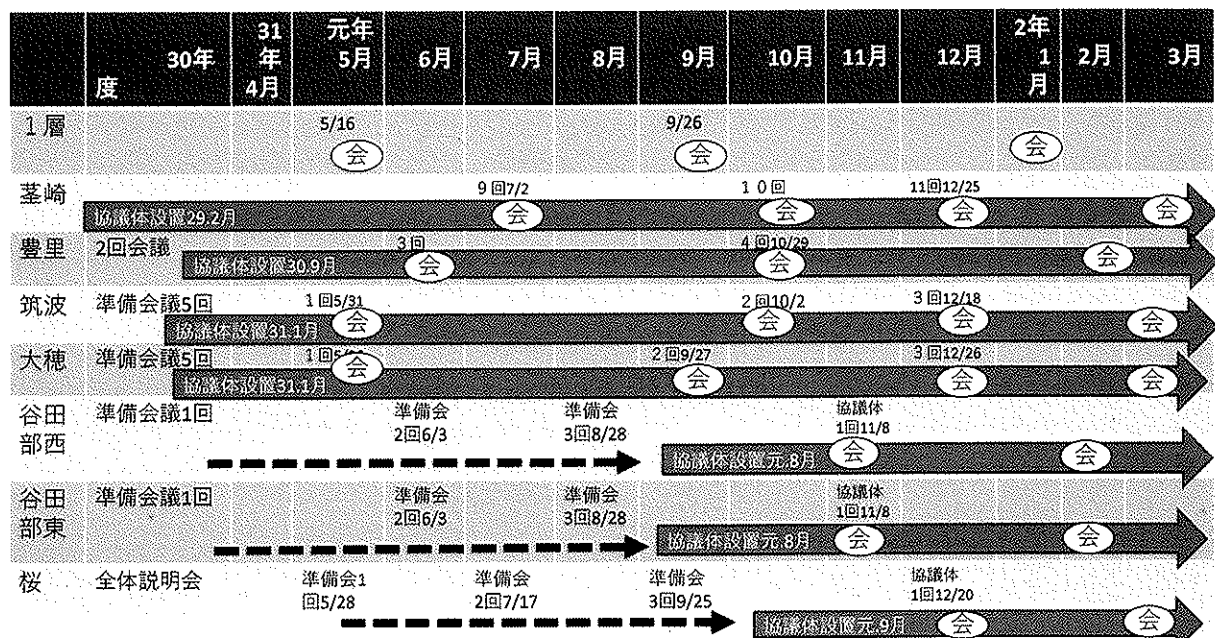


つくば市イメージキャラクター 「フックン船長」

1

1.

令和元年度の協議体・準備会開催進捗（12月末現在）



2

令和元年度 各地域での取組状況（令和元年12月現在）

○荃崎地区

第2層協議体 3回 延参加者 76名 平成30年2月9日 協議体設置

○豊里地区

第2層協議体 2回 延参加者 51名 平成30年9月28日 協議体設置

○筑波地区

第2層協議体設置 3回 延参加者 121名 平成31年1月25日 協議体設置

○大穂地区

第2層協議体 3回 延参加者 49名 平成31年1月30日 協議体設置

○谷田部地区

第2層協議体設置準備会 2回 延参加者 47名 令和元年8月23日 協議体設置

第2層協議体（東） 1回 参加者 30名

第2層協議体（西） 1回 参加者 26名

○桜地区

第2層協議体設置準備会 3回 延参加者 60名 令和元年9月25日 協議体設置

第2層協議体 1回 参加者 32名



3

3

これまでの各地域での取組状況まとめ

荃崎地区

協議体設置
(平成30年2月9日)

- ・モデル地区として他の地域より早く事業に取り組む。
- ・準備会議を4回開催しその後事業の方向性を共有するための「キャッチコピー」を作成し、第2層協議体を設置した。
- ・第2層協議体では現在まで11回の会議を開催。見守りや居場所について荃崎の中での先進地域の取り組みを発表いただいたり、地域の資源をマップ化した。それを参考に参加者が地域での取り組みの見直しや、新たなサロンなどの活動を立ち上げるところが出てきた。さらに、参加者が荃崎地区全体（2層）や住んでいる地域（3層（小学校や区会））で出来ることを検討している。荃崎では介護支援専門員との情報交換も行った。

「あなたの力 あなたの心
支え合う街 くまざき」



第10回 荃崎地区第2層協議体会議 39名参加

日 時／令和元年10月10日（木）

13:30～15:30

場 所／荃崎保健センター

内 容

- ①生活支援体制整備事業について
- ②生活支援体制整備事業でやりたいこと！
進捗状況報告（1回）
- ③介護支援専門員との意見交換（1回）
- ④次回の検討



参加者/39名
区長14名 民生委員3名 ふれあい相談員3名
ふれあいサロン2名 シルバークラブ2名 NPO法人1名
ボランティア7名 区民3名 議員2名 社協1名
ケアマネジャー7名 ※重複1名
地域包括支援課4名 合計43名

4

これまでの各地域での取組状況まとめ

豊里地区

協議体設置

(平成30年9月28日)

- ・準備会議を3回実施した後で協議体設置。
- ・協議体1回目の話し合いは開業医が少ない地域で、「かかりつけ医について」協議した。訪問診療や移動支援の活用について議論した。
- ・2回目では移送サービスにてNP0の方に話を伺い、自分たちで出来ることを検討。
- ・3回目では地域の資源を確認し共有した。
- ・4回目では、今までの話し合いを進めた中で、地域で出来ることを具体的に話し合っていく。

「目配り 気配り 支え合い
心豊かに なごお里」



第3回 豊里地区第2層協議体会議 29名参加

日時/令和元年6月21日(金)

10:00~12:00

場所/老人福祉センター とよさと

内容

- (1)生活支援体制整備事業前回の振り返り
- (2)見守り活動について グループワーク
「見守りの良さと課題を考えてみよう」
- (3)第2層コーディネーターの
役割について



参加者: 役員13名、関係機関職員、シニアグループ、
ふたばいびき隊、ふたばいびき隊、
社会福祉協議会、
大宮・豊里地区協議体センター、社会福祉協議会
(事務局)

5

5

これまでの各地域での取組状況まとめ

筑波地区

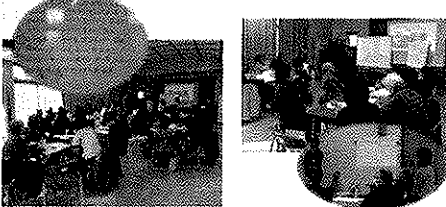
協議体設置

(平成31年1月25日)

- ・準備会を5回開催し協議体設置になる。
- ・準備会では「ごみ問題」について協議。地域の人達が協力し合う必要がある事に気付いた。ごみの収集については行政担当課の情報を基に、集積所の助成等について伝えた。他に「居場所と繋がり」についても検討。
- ・参加者が一番多い地区。地域差もあるため準備会から地域を5つに分けて話し合いを実施している。

協議体1回、2回では地域の資源「お宝」をまとめ、マップ化し地域で何が足りないかどんな物が必要かなどを共有した。3回目では地域で出来ることを具体的に検討した。

「みんなの親切 地域愛
絆深まるまち 筑波」



第1回 筑波地区第2層協議体会議 40名参加

日時/令和元年5月31日(金)

10:00~12:00

場所/市民研修センター 研修室

内容

- (1)筑波地区
第2層協議体設置準備会議の取組
- (2)社会資源等の確認・把握
地域の「お宝」を探そう
- (3)次回内容検討



参加者/40名
役員、関係機関職員、シニアグループ、ふたばい
びき隊、ふたばいびき隊、大宮・豊里
地区協議体協議体センター、社会福祉協議会
(事務局)

6

これまでの各地域での取組状況まとめ

大穗地区

協議体設置

(平成31年1月30日)

- ・準備会を5回開催し協議体設置になる。
- ・準備会では地域のネットワークについて話し合い、地域で活動している団体を知ることやどうしたら連携を取れるかを検討した。ネットワークを強化していくことから地域での活動を検討した。
- ・協議体1回目は社協の見守りネットワーク事業の報告と、地域の資源を確認。
- ・2回目は見つけた資源をマップ化し、地域の資源について共有した。・3回目は地域の資源などを確認した状況から、地域で出来ることを具体化した。



第2回 大穗地区第2層協議体会議

16名參加

日 時／令和元年5月29日(水)

13:30~15:30

場 所／大穂交流センター 2階研修室

内 容

- (1)前回の振り返り
社会資源等の確認・把握
地域の「お宝」を探そう
(2)社会資源マップづくり
(3)次回内容検討



参加者/18名(実人数18名)

[illegible]

これまでの各地域での取組状況まとめ

谷田部西

協議体設置

(令和元年8月28日)

- ・谷田部地区については、谷田部西・東合同で説明会や準備会を実施。
- ・準備会は3回実施し、1回目と2回目で地域の良さと課題、アイディアについて検討。3回目に「キャッチコピー」を作成し、協議体設置となる。
- ・協議体1回目は谷田部西と東を午前・午後で分けて実施。「居場所」について検討し各地区の状況を共有した。
- 2回目は、「ごみ問題」等について検討する予定。

谷田部東

協議体設置

(令和元年8月28日)

(同上)



第3回 谷田部地区第2層協議体設置準備会議

19名參加

日 時／令和元年8月28日(月)

10:00~12:00

場 所／つくば市役所 203会議室

內 容

- ①前回の振り返り
地域の課題とアイデアを考えよう！
②キャッチコピーを考えよう
～こんな地域にしたい～
③今後の取り組みについて



● 2016 年 5 月 22 日

区長5名、民生委員5名、ふれあいワゴン1名
シムパーカップ3名、HPO1名、長瀬餅店出張1名
第1消防団休所長委員1名、打鼓1名、牛車輪1名

これまでの各地域での取組状況まとめ

桜地区

協議体設置

(令和元年9月25日)

- ・最後に事業に取り組んだ地域。
- ・準備会は3回実施し、1回目と2回目で地域の良さと課題、アイデアについて検討。
- ・3回目に「キャッチコピー」を作成し、協議体設置となる。
- ・協議体1回目開催について、区長の参加を多くしたいとの希望があり、桜地区の区長さん全員に連絡し、事業説明と「居場所について」検討した。



第1回 桜地区第2層協議体準備会議 24名参加

日時/令和元年5月28日(火)

14:00~16:00

場所/桜総合体育館 会議室

内容

- ①生活支援体制整備事業
全体説明会の振り返り
- ②全体説明会アンケート結果
- ③桜地区を考えるワークショップ
地域の良さを考えよう!



参加者/31名(実人数24名)
区長6名、民生委員12名、
ふれあい相談員3名、シルバークラブ2名、
ふれあいサロン4名、市民委員1名、
住友2名、社協1名、水産会7名

地域での検討1

課題への対策検討

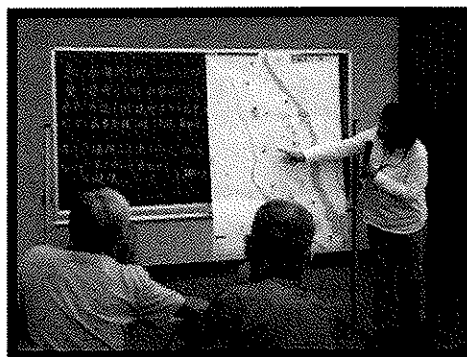
社会資源等の確認・把握

地域の「お宝」を探そう!
皆さんの知っていることを共有しよう。

みんなで見つけた地域の「お宝」を見える化
地図にお宝を貼ってみよう!!

社会資源一覧表を第2層コーディネーターを中心に作成し、
参加者に配布予定

活動内容	活動日時	参加人数(名)
本道博覧会		
ロシアン・バー・クラブ		
ふたばのりん		
池田公園	第1回 3月20日 10:00~15:00 健康体操、ゲーム、保護活動、出 発準備	約40名 市役所センター (牧野地区見物客)
町さくらのみ	第2回 3月27日 10:00~15:00 健康体操、本町会	約40名 市役所センター (町内見物客、地区見 物)
沢田公園	第3回 3月29日 10:00~15:00 健康体操、ゲーム、 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772	

[illegible]

地域での検討 2

やりたいことシートの活用・支援

「記入例」 生活支援体制整備事業 やりたいことシート（氏名）

やりたいこと	地域で高齢者が多くなり、地域の行事に出られない人が多くなったので、見守りと集まりれる場所を作りたい。
どうやって	エリア：〇〇区会 方法：シルバークラブに参加しなくなった人を訪問する「友愛訪問」 今までのサロンに高齢者参加の日を作ってもらう。（誘って参加） いつまで：今年度1回は開催したい
期待できること	・地域が増えてくる高齢者の見守りが地域で出来る。 ・介護保険を利用する人でも、地域で孤立しない。 ・サロンやシルバークラブで活躍できる人達が 5年後10年後の体制を作れる。 ・地域の人が仲良くなれる。

この頃、外に出るのが面倒になった。遊びに来てくれるのは嬉しい



地域の「お宝」を増やすことが大事なんだよね。
「お宝」は見守りやサロン、運動や簡単な生活支援やお祭りなどいろいろあるね。

13

地域での検討 2

やりたいことシートの記載(抜粋)

◎荃崎地区

- ・高齢者の健康管理維持システムの構築 ・今の自治会イベントの参加者を増やす。
- ・ボランティアによる訪問交流を実施 ・事業実施のための組織を作る。
- ・他の地域とのサークル交流 ・福祉活動の便利帳作成・・・ 他

◎筑波地区

- ・公共交通を使った買い物支援や行事への参加・歩いて行ける場所にサロンを作る。
- ・防災体制の構築 ・集落内が希薄になっているので見守りと集まりの場を作りたい。
- ・伝統行事・盆踊りなどの活性化や復活 ・子供の安全な遊び場・・・ 他

◎大穂地区

- ・高齢者、障がい者等への支援活動 ・大穂地域の子供たちの育成支援
- ・ふれあいサロンの回数を増やす。 ・地域の方への声かけや見守りの充実
- ・昔の風習を復活したい。 ・多世代交流の実施・・・ 他

14

14

やりたいことシートをきっかけとして地域が動いた事例

◎地域が自主的に動いたケース

(筑波) 集落内が希薄になってきているので、見守りと集まりの場を作りたい
 方 法：現在開催しているサロン（女性10名程度）で行っている活動を全体（特に男性）に
 広めていく。
 いつまで：初めに区長・ふれあい相談員・民生委員（男性3人）が12月～サロンに参加。来年度中
 に本格的（月1回）実施したい。

◎地域包括支援課等が協力できたケース

(荳崎) 高齢者の健康管理維持システムの構築
 方 法：定期的に健康管理データーを基に、本人と医療関係者（地域住民）が相談して生活習慣の変化、
 医療への早期対応ができるようにする。
 いつまで：すぐに始める。宝陽台地区から荳崎地区に輪を広げ持続性のあるシステムにしたい。



・第2層協議体へ参加した介護支援専門員の紹介
 ・事業を広げるための事業への協力（2月健康祭りへの参加）
 （地域包括支援課・荳崎地域包括支援センターの介護相談・血管年齢の測定）

15

15

地域での検討 2

「やりたいことシート」を活かした課題解決へのプロセス状況

①やりたいことが、どこまで具体的に検討されているかで進捗が違ふ。

→やりたいことの思いの確認及び具体策をどのように検討していくかを明確にしていく
 支援が必要

②記載している人の地域でのポジション等により進捗が違ってくる。（区長・一般市民等）

協議体に参加している人によっては、やりたいことはあるが地域の事は自分だけでは
 決められないと進まない状況がある。

（参加者）・・・小さなことでよいので、自分たちで出来た体験を積み重ねる。

（参加者中心で）・・・一緒に地域での話し合いを検討する。

（行政等）・・・マニュアル等を作成し、やりたい事業の立ち上げ等が分かるよう
 にする。

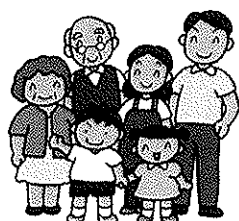
16

16

地域での検討 3

介護支援専門員さんが悩んでいるごみ問題

介護支援専門員（ケアマネジャー）さんは介護保険のケアプランを作る人で、介護保険を利用する時には必要な人です。



ケアマネジャーさんから
出ている「ごみ問題」
地域でも考えよう！

17

地域での検討3

介護支援専門員（ケアマネジャー）の意見（抜粋）

集積場の清掃
当番が大変。
断りたい。

認知症の方は
ごみの分別が
出来ない。

集積場まで遠
く歩いてい
けない。

集積所にごみを置けな
い（投げられない）

自治会を辞めたら
ごみが捨てられ
なくなった。

☆自治会に入ろうと思っ
ていたが、会費が高額で近所
付き合い（葬儀の手伝いや
旅行）もしてほしいと言わ
れた。

介護保険でも出来な
いことがあるので、
地域の協力があると
助かる。

ヘルパーさんが少
なくてごみ捨てだ
けで頼めない。



地域の人が、ごみ
捨てが大変になっ
ていることを共有
できていない。

18

ごみ問題（ごみ捨て）についての第2層協議体会議での主な意見

◎介護保険利用者の方がごみ捨てについて困っている事を地域の方は知らない。

→ケアマネジャーが地域に働きかける。又、働きかけがしやすい環境を整備することが必要

◎地域でもごみ捨てや掃除等が困難な状況の方に対しては配慮している地域（区会）と配慮していない地域（区会）が分かれている。

◎区会等に参加しないとごみが捨てられない地域と区会等に参加していなくても捨てられる地域がある。

→清掃が条件で捨てられる地域。誰でも捨てられる集積所を作っている地域など地域差がある。

→新しく住んだ方などは独自に数軒で集積所を作っているところがある。クリーンセンターに直接捨てに行っているケースも多い。（地域と交流がない・親族が捨てる）

（ケアマネジャーの意見）区会等の決まりがあり難しいが、ごみ捨てと区会加入を別に考えてほしいとの意見が多数。

（区長・地域での意見）区会に入って一緒に行事などにも参加してほしい

19

19

第2層コーディネーターの配置

◎2層の支援から3層・4層への支援へ

この事業の必要性等を第2層協議体設置準備会議や第2層協議体で確認してきた。

次に取り組むことは、より身近な地域での検討・取り組みが必要になる。

◎令和2年1月よりつくば市社会福祉協議会に委託（荃崎・大穂・豊里・筑波）

①社会福祉協議会で実施している、小学校区等での「見守りネットワーク事業」を活用し、継続的に話し合いの場を持てる。

②地域で推進している「ふれあいサロン」や「見守り」「シルバークラブの育成」などの域資源の開発や活用が柔軟に行える。

③ボランティアの登録や住民参加型サービス等の活用を通し、地域住民がお互いに助け合う「互助」の意識を根付かせる事ができる。

20

20

フォーラムに関する検討事項

- シンポジウムの内容
- ターゲット
- タイトル
- タイムスケジュール（資料No.3 参照）
- 場 所
- 事例発表
- 分科会

「題名未定」フォーラムタイムテーブル(たたき台)

令和2年(2020年)5月31日(日)

場所	会議室201(メイン) (会議室202テレビ中継)	廊下
AM	会場設営	準備
12:30	入場開始	12:30～16:00
13:00～13:10 (10)	開会・挨拶	①企業による展示 カスミ、ジョイフル本田 イオンは要確認
13:10～13:55 (45)	基調講演 「地域ケアと生活支援体制整備事業に求められる役割 (仮題)」 厚生労働省老健局長 大島 一博氏	②第2層協議体の活動について紹介 ③地域づくりのチラシ、パンフレット展示 ④地域づくりフォトコンテスト ⑤地域で活動している団体の紹介
13:55～14:05 (10)	トイレ休憩、会場設営	⑥地域包括支援センター紹介パネル展 示、 チラシ配布
14:05～	シンポジウム (司会:山中委員長)	⑦脳年齢、血管年齢測定、 血圧・骨密度計測コーナー
14:05～14:25 (20)	「つくば市の特色、取組(仮)」 保健福祉部長 水野 忠幸	
14:25～14:45 (20)	取組発表①	
14:45～15:05 (50)	取組発表②	
15:05～15:25 (20)	取組発表③ (つくば市の生活支援体制整備事業)	
15:25～15:35 (10)	局長からコメント	
15:35～15:55 (20)	質疑応答、フロアとのディスカッション	
16:00	終了	

令和元年度 圏域別ケア会議 事業報告（4月～12月）

圏域別ケア会議は、日常生活圏域毎に開催し、新規事例検討と前回検討事例の経過報告及び評価を実施。個別ケースの検討から地域課題の発見につなげる。

＜奇数月開催＞ 筑波、大穂・豊里、谷田部西 ＜偶数月開催＞ 桜、谷田部東、荃崎

1 参加機関

「高齢者の地域包括ケアのためのミニ知識 2019」掲載の介護保険サービス事業所及び市内医療機関に通知

	通知数	参加数
医療	269	98 : 36%
介護	1,065	310 : 29%

2 実施回数 27回（内6回夜間開催）

3 参加人数 560人

4 職種別参加状況

職 種	数	職 種	数	職 種	数
医師	15	鍼灸師等	11	支援相談員	19
研修医	3	看護師	33	在支相談員	9
歯科医師	5	薬剤師	14	福祉用具専門相談員	11
歯科衛生士	1	退院調整看護師	6	民生委員	10
理学療法士	41	医療ソーシャルワーカー	9	生活保護ケースワーカー	2
作業療法士	16	精神保健福祉士	4	その他（管理者・社協等）	37
言語聴覚士	6	介護従事者	13		
管理栄養士	3	介護支援専門員	305		
機能訓練指導員	1	生活相談員	22	合 計	596

5 事例検討

(1) ケースタイトルと課題のカテゴリー

【課題のカテゴリー】 A：生活困窮 B：金銭管理 C：介護力低下 D：介護負担 E：後見人なし
F：社会的孤立 G：認知症 H：徘徊 I：妄想 J：閉じこもり K：健康不安 L：買物困難
M：移動不安 N：生活環境悪化 O：看取り

	ケースタイトル	課題のカテゴリー														
1	サービス拒否のある認知症高齢者妻の介護負担を減らすための支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
2	障害がある息子との同居高齢女性への援助について	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O

【課題のカテゴリー】 A：生活困窮 B：金銭管理 C：介護力低下 D：介護負担 E：後見人なし
F：社会的孤立 G：認知症 H：徘徊 I：妄想 J：閉じこもり K：健康不安 L：買物困難
M：移動不安 N：生活環境悪化 O：看取り

	ケースタイトル	課題のカテゴリー															
3	現症状の原因が不明、医療との連携をどのように諮るか	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
4	サービス利用に拒否のある認知症女性の支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
5	金銭管理が難しい独居高齢者の支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
6	疼痛により筋力低下が著しく疲れやすい日々苦痛の女性	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
7	健康と生活への支援を受け入れない利用者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
8	医療や介護等の理解が進まない 80 代男性への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
9	障害のある独居男性の生活支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
10	同居家族から介護協力を得られない 70 代夫婦の支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
11	支援を重要視しない長男と統合失調症の次男との同居生活を見据えながら支援、調整が必要な 80 代女性	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
12	本心を語らず、心を開かない 60 代男性への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
13	社会性に乏しく、セルフケア能力がないため退院後の生活環境整備が困難	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
14	高齢な母親と 2 人暮らし。脳出血を発症し左麻痺がある方の支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
15	介護拒否・拒薬がある利用者と家族への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
16	外出が億劫でも、デイサービスは週 2 回行きたい	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
17	独自の考えから在宅での健康管理体制が整わない 70 代男性への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
18	自宅での生活を続けたい認知症の独居女性への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
19	認知症が見られるが、在宅で生活していくために今後必要な支援について	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
20	キーパーソンが定まらないアルツハイマー型認知症の 80 代男性	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
21	ひきこもりの子供を持つ親の支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
22	アルコール依存症の治療を拒否している男性	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
23	原因不明の腹痛により ADL が低下している男性への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
24	認知症のある方の車での外出	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
25	若年性認知症の方の生活支援・生きがい支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
26	妄想性精神疾患の妻と暮らす、認知機能や生活意欲低下が目立つ 80 代男性	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	
27	サービス未利用の高齢の母親と通い介護する精神疾患のある長女等家族への支援	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	

(2) 性別

男性 14 人、女性 13 人

(3) 年齢層

90 代	80 代	70 代	60 代	50 代	40 代
2 人	11 人	8 人	4 人	2 人	0 人

(4) 世帯状況

独居	(うち長男家族 敷地内別居)	高齢者世帯	(うち長男家族 敷地内別居)	家族と同居
10 人	(1 人)	6 人	(3 人)	11 人

(5) 介護度

要支援 1	要支援 2			
2 人	5 人			
要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4 人	7 人	6 人	0 人	0 人
申請中	未申請			
1 人	2 人			

(6) 疾患（重複あり）

腰部左大腿部打撲症、左大腿骨骨折、変形性膝関節症、腰部脊柱管狭窄症、第 3 腰椎骨折、第 7 腰椎骨折、左手首骨折、肋骨骨折、偽痛風、頸椎症、頸椎症性頸髄症、両下肢変形性膝関節症、腰痛症、左前腕部骨折、左大腿骨大転子部骨折、骨粗鬆症、左上腕骨骨幹部骨折、第 4 腰椎圧迫骨折、腰椎椎間板炎、第 12 胸椎椎体骨折、脊柱管狭窄症、胸椎圧迫骨折	13 人
脳梗塞後遺症、脳梗塞、脳出血、心原性脳塞栓症、脊髄小脳変性症	10 人
心筋梗塞後、心房細動、不整脈、慢性心不全、下肢閉塞性動脈硬化症	4 人
認知症（アルツハイマー型、脳血管性、初老期）	10 人
子宮がん、大腸がん、前立腺がん、乳がん術後	4 人
抑うつ神経症、うつ病	3 人
腎盂腎炎、腎臓機能低下、慢性腎不全	2 人
糖尿病	3 人
アルコール性肝炎、アルコール依存症、ウェルニッケコルサコフ症候群	2 人
パーキンソン症候群	1 人

令和元年度第3回つくば市地域ケア会議（令和2年1月23日開催）

つくば市地域ケア会議資料

地域ケア会議の機能整理表

会議	目的	参加者	機能					
			個別課題 解 決	ネットワー ク 構 築	地域課題 発 見	地域づくり・ 資源開発	政策形成	その他
つくば市 地域ケア会議	地域課題の整理、 課題優先順位決定、 方針検討・決定	保健・医療・福 祉・法律・学者・ 市民団体・市民	—	△	○	◎	◎	—
つくば市圏域別ケ ア会議	自立支援に資する ケアマネジメント 支援、フォーマ ル・インフォーマ ル等のニーズ抽出	市内の保健医療福 祉の関係機関・事 業所等	◎	◎	◎	—	—	—
個別ケース会議	臨時のサービス等 調整	ケース関係者 必要専門職種	◎	◎	△	—	—	—
つくば市自立支援 型個別ケア会議	利用者のQOLの 向上を目的に、介 護予防のケアプ ラン作成とケアの提 供	医師、PT、OT、 薬剤師、管理栄養 士、歯科衛生士、 主任介護支援専門 員	◎	◎	◎	—	—	◎

課題解決に向けた取組 - 移動支援 -

個別ケース 検討

- ・医師から車の運転の中止を勧められているが定期受診もあり車がないと生活ができない、体調不良がきっかけとなり徒歩で行っていた買い物等ができなくなった等、加齢による能力低下や健康状態の悪化による移動が関連するIADLが行えなくなったという事例が少なくないことがわかった。（平成30年度第3回にて検討）

地域課題の 発見

- ・公共交通の使い勝手が悪く免許返納をためらってしまう、医療機関への受診や買い物が困難である等の意見があり、外出の機会の減少から閉じこもりにつながってしまうことから、生活ニーズに応じた移動手段を検討する必要があるということがわかった。

課題解決へ の提案

- ・社会福祉法人の「地域貢献」の一環として、社会福祉施設の車両を活用した移送支援（案）について検討。つくば市内の特別養護老人ホーム施設長からの意見を踏まえ、買物支援の事業化に向けて整備開始。令和2年、つくば市社会福祉協議会とのつくば市地域支援事業業務の委託契約を締結。本事業による「生活支援事業の一環」として、買物支援の実用化への準備を整備する。
- ・令和2年4月からの本運用に向け、試験運用の評価及び関係機関等の意見を踏まえ、実施要領作成を進める。

本運用まで の取組

- ・買物支援事業の実用化に向けた運用試験を実施。
- ・対象者選定
本支援事業への協力意向のあった特別養護老人ホーム併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に、運用試験に協力可能な利用者の有無の把握を実施。希望者に対して、本運用試験の趣旨を訪問して説明し、同意の上、対象者とした。
- ・第1回運用試験（令和元年12月）
 - a 荃崎地区 ⇒参加者 3名、協力施設 ⇒特別養護老人ホームくきの里、特別養護老人ホーム大地と大空
 - b 桜地区 ⇒参加者 1名、協力施設 ⇒特別養護老人ホームつくばの杜
 - c 谷田部地区⇒参加者 2名、協力施設 ⇒トレランス田村
- ・第2回運用試験（令和2年1月（予定））
筑波地区 ⇒参加者 2名、協力施設 ⇒特別養護老人ホーム筑波園、特別養護老人ホームシニアガーデンアネックス
- ・今後、第1回及び第2回の運用試験について評価し、協力関係機関との協議を踏まえ、つくば市地域支援事業における買物支援実用化への準備を進める。

課題解決に向けた取組 - 移動支援 -

【買物支援試験運行（令和元年12月）報告書】

日付	地区	利用者属性		協力施設	行先
20日（金） 10：00～11：30	桜	1名	67歳男性 支援1	つくばの杜	レプサモールカスミ
23日（月） 10：00～11：30	谷田部	2名	90歳女性 支援1 91歳男性 支援1	トレランス田村	レプサモールカスミ
23日（月） 10：00～11：30	荃崎①	2名	85歳女性 支援1 87歳女性 支援2	大地と大空	フードオフストッカー 牛久ししこ店
23日（月） 13：00～14：30	荃崎②	1名	87歳女性 支援1	くきの里	フードオフストッカー 牛久ししこ店

課題解決に向けた取組 - 移動支援 -

【参加者からの意見】

- ・つくタクを利用しているが、迎えの時間までが長いし、予約が取りづらいため、本日の買い物時間は丁度良いと感じた。
- ・レプサモールのカスミのように、いろいろな店舗が集まっているところがよい
- ・運行の前日に電話連絡をもらったので、思い出すことができてよかった
- ・本日は天気が良かったからいいが、雨の日は店舗入り口が滑るので危険
- ・慣れない店だと時間がかかる、もう少しゆっくり買い物がしたい

【施設側からの意見】

- ・レプサモールは同一敷地内にドラッグストアや百均があるので、要望があれば他の店にもいけるようならよいと思う。多少時間は長くなるかもしれませんが。
- ・体調不良や事故が起きた時の対応、予定外のことが起きた時の判断はどうか、知っておきたい。
- ・30分では買い物の時間が短く、せっかく買い物に来たのに楽しめたか疑問

【検討課題】

- 1) ボランティアの確保について
つくば市介護支援ボランティア制度の登録者に対し、買物支援の添乗の意向調査を1月中に行い、2月～3月に選定と依頼
- 2) 対象者の確保について
居宅介護支援事業所、民生委員、その他団体に、該当する対象者の選定
- 3) ボランティアマニュアルの作成について
施設やボランティアの支援手順や事故等の際の対処の流れについて一通りのことが書かれたマニュアル作成が必要
- 4) 業務の役割分担の明確化
対象者の面接、ルートの作成、施設・利用者への事前連絡など、社協と役割分担が必要

課題解決に向けた取組 - 移動支援 -

買物支援 令和元年度スケジュール

	9月		10月			11月			12月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
利 用 者	試験運用対象者の選定方法検討、候補者決定					試験運用対象者への説明（同意書作成）			試験運用（第1回）	試験運用（第1回） 評価、検証 等	
ボランティア	添乗ボランティアの選定条件の検討、加入保険の確認・検討										
運 用 準 備	実施市町村の視察		巡回ルート及びルート担当施設の検討・決定				試験運用準備走行				
事 務 局	令和元年度第2回 つくば市地域ケア会議		保険・保障の検討								

	1月			2月			3月			4月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
利 用 者	試験運用 (第1回) 評価、検証等			試験運用(第2回)			全試験運用の評価、検証等			移送事業スタート (予定)
ボランティア										
運用準備										
事 務 局										
							実施要領(仮)決定			

課題解決に向けた取組 - ごみ問題 -

個別ケース 検討

- ・退院後も自分でしたいという希望があるが、以前は徒歩で行っていたゴミ集積所は自宅から遠いためゴミ出しの課題がある
- ・集積所にゴミを捨てられない。車を所持しているためクリーンセンターに捨てに行くが、ゴミが溜まってしまい不衛生な状態で環境が悪い

地域課題の 発見

- ・ゴミ集積所が自宅から遠いこと、隣接する区会の集積所は近くにあるが出せないこと、区会未加入のため近くのゴミ集積所にゴミを捨てられない等、加齢等の身体機能低下による問題や地域のルールによる問題によりごみが出せないことがわかった。

解決に向け た取組

- ・圏域別ケア会議後に開催する介護支援専門員意見交換において、問題の課題化から、課題解決への方法（アイディア）等の洗出しを実施。
- ・第2層協議体において、介護支援専門員意見交換での課題等について、地域における状況把握等のための意見を確認している。

意見交換会 ～テーマ～ 地域で抱える ごみ問題 について

<地域課題>

- ①ごみ集積所までの距離（徒歩・車で行く）の問題
- ②ごみを持ち上げて集積所に積むことができない。
- ③ごみ集積所の環境が違う。地域ごとにルールがある。
- ④自治会をやめてしまったために、ごみ集積所にゴミ捨てができない。
- ⑤ごみ集積所の掃除を断れない。
- ⑥ごみ箱設置が負担で、地域内で定期的にごみを置く場所を変えて管理している。
- ⑦ごみ出し支援をヘルパーのサービスで対応してもらうことが難しくなっている。
- ⑧認知症の方は、ごみの分別ができない、曜日も守らないため地域でトラブルになってしまう。
- ⑨介護保険を使っている方は、ケアマネがついているので大丈夫という認識があり、地域の方の支援が遠のいてしまうことがある。

<その他の課題>

- ①自治会に入るつもりだったが、会費が高額で近所付き合いもしてほしい言われ、入会しなかったらゴミが捨てられない。
- ②ごみ捨てを近所の人に頼みたくないと思っている人もいる。
- ③個人で（ごみ捨てができない人）の認識はあっても、地域でごみ問題は認識されていない。

課題解決に向けた取組 - ごみ問題 -

第2層協議 体での話し 合い

- ①介護保険利用者の方がごみ捨てで困っていることを地域の方は知らない。
→ケアマネジャーが地域に働きかけをしやすい環境を整備することが必要
- ②ごみ捨てや掃除等が困難な方に対して配慮している地域もある。
→地域差がある
- ③区会に加入していないとごみが捨てられないこともある。
→掃除を条件に捨てられる、区会未加入でも捨てられる、加入しないと捨てられない、など地域差がある。
→独自に数軒で集積所を作っているところがある。クリーンセンターに直接捨てに行っている。

【 地域課題解決に向けた整理表 】

a 地域とのつながりや見守りのチームづくり

個別ケース 検討	・近隣の見守りが必要と思われるが、養護者が周囲との関わりを持とうとせず、必要以上の介入は拒否する ・独居だが、トラブルがあり近所との付き合いがない。親族とも疎遠 ・集合住宅で近所付き合いがない。区会もない ・近所の目を気にして、受診以外に外出の機会がない ・転倒の不安があり一人での外出を制限しているため、自宅で夜型の生活となってしまうが、生活のリズムを整えたい ・日本に移住してきた外国人の方の支援で、本人や家族とのコミュニケーションのとり方をどのようにしたらよいか ・キーパーソンが遠方のため、緊急時すぐに駆けつけることができない ・消費者被害等にあい、金銭管理ができなくなっているが、認知症の診断は受けていない
地域課題 の発見	・本人や家族が周囲との関わりを望まない、周囲の目を気にして近所とのつながりを持ってない、近隣との関係が悪い世帯がある ・介護保険サービスと地域とのつながりや支えあいとうまく連携できていない ・介護保険サービスに結びつくことひと安心と感じてしまい、ご近所とのつながりや支え合いが希薄になってしまう ・消費者被害等に繰り返しあってしまう方を地域で見守る必要がある
委員からの 意見	・砂川市では、市で独居や高齢者世帯を訪問し、生活弱者を把握し介入しているとのこと。地域性が違うので、つくば市が同じようにいくかどうかはわからないが、地域の力が試される課題なのではないか。
実施している 取組	・社会福祉協議会の見守りネットワーク事業による見守り活動 ・消費生活センターや地域住民との連携
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

b 火の不始末等による火事の不安や対応

個別ケース 検討	・アルツハイマー型認知症の方が家族の注意を聞かず、野焼き（ゴミを燃やす）をやめない ・喫煙を止められない
地域課題 の発見	・認知症のため火の始末ができない ・喫煙による火事の不安がある ⇒疾患が関係しているので、医療度の高い課題である。地域でどのような関りができるか。
提案に向けた 意見の集約	
地域づくり・ 資源開発や 政策形成に 向けた提案	

c 相談窓口の周知

個別ケース検討	・介護等に困っても、どこに相談したらよいのか分からずに過ごしている人がいる。早めに周りが気づき支援ができなかったのか
地域課題の発見	・地域に埋もれている支援の必要なケースが相談につながらない ・地域包括支援センターが知られていない
委員からの意見	・在宅医療啓発講座（医師と介護支援専門員による講演、講師とのディスカッション）を医師会の協力で、平成30年度は試験的に2ヶ所で実施し、令和元年度は6ヶ所で実施する活動が開始されている。 ・各圏域に設置されている地域包括支援センターを住民に周知していく。 ・民生委員の高齢者台帳調査と地域包括の連携について →平成30年度から民生委員の台帳調査の際に身体状況や認知機能の聞き取りをしてもらい、対象となった方を保健師が訪問している。
実施している取組	・在宅医療啓発講座 ・市民向け出前講座
提案に向けた意見の集約	
地域づくり・資源開発や政策形成に向けた提案	

d 緊急通報システムの活用

個別ケース検討	緊急通報システムを設置している方 ・首からペンダントをかけない利用に対して、どのように説得すればよいか ・ペンダントは寝室に置いたままで携帯していない
地域課題の発見	・緊急時に通報ができない可能性があるが、ペンダントを身につけない
委員からの意見	・必要性や重要性を十分理解していないと利用につながらない。携帯しないのは、認知症等の疾病が関係しているかもしれない。
提案に向けた意見の集約	
地域づくり・資源開発や政策形成に向けた提案	

e 家族や地域の方に対して認知症の理解を深める

個別ケース 検討	・消費者被害等にあい、金銭管理ができなくなっているが、認知症の診断は受けていない ・妄想や昼夜逆転等の症状があるが、適切な医療につながっていない。服薬管理もできていない ・脳血管性認知症の方が自分で貯金ができていると考えており、金銭管理の支援を拒んでいる
地域課題 の発見	・認知症疑いがある方の専門医への受診支援や介護保険サービス導入までの難しさがある ・認知症等で金銭の自己管理が困難な方が増えている
委員からの 意見	・疾患が関係しているので、医療度の高い課題 在宅医療・介護連携推進事業や認知症初期集中支援チーム（認知症サポート医と連携し、医療機関の受診や介護保険サービスの利用に関しての相談を受ける）で対応できるのではないかな。 ・金銭管理のトラブルについて、金融関係でもガイド等を作成し取組んでいる。 ・健康診断の情報を共有し、早期発見、早期対応につなげ、連携を深める。
実施している 取組	・認知症初期集中支援チーム ・認知症サポーター養成講座 ・認知症関連啓発活動（まつりつくば、世界アルツハイマー街頭行動、ボランティアフェスタへの参加） ・認知症声かけ模擬訓練（小学校区で地域ワークショップを開催し、声かけの模擬訓練を行う） ・オレンジカフェの開催 ・よろず相談（市内の高齢者グループホーム）、認知症お困りごとメール相談（とよさと病院認知症疾患医療センター）

f 医療が必要な人への十分な支援が整わない

個別ケース 検討	・コミュニケーションがとりづらく、理解力や判断能力も低い。不安定な関わりの知人を頼りにし、成年後見制度利用を拒否 ・地域での活動を積極的に行っていたが、うつ病の影響で自宅に閉じこもり気味になっている
地域課題 の発見	・サービス担当者や知人のそれぞれが支援をしている状況で、方向性が一致していない ・これまであった地域の関わりを保つためにそれぞれの役割決めが必要
委員からの 意見	・疾患が関係しているので、医療度の高い課題 在宅医療・介護連携推進事業や認知症初期集中支援チーム（認知症サポート医と連携し、医療機関の受診や介護保険サービスの利用に関しての相談を受ける）で対応できるのではないかな。
実施している 取組	・在宅医療・介護連携推進事業や認知症初期集中支援チーム

事業化された地域課題

個別ケース
検討

- 複数の個別事例の検討を進めていく中で、リハビリテーション専門職種による、身体機能の低下に対する専門的助言や指導、身体機能に応じた福祉用具の選定及び家屋環境の整備についての助言や 指導が必要という事例が少なくないことがわかった。

地域課題の
発見

- 医療保険によるリハビリテーションや介護保険サービスによるリハビリテーションを利用していないと、リハビリテーション専門職種の介入機会がないという制度上の課題を発見。

提案からの
事業化

- リハビリテーション専門職種によるアセスメント訪問を試験的に実施できないか、茨城県リハビリテーション専門職協会の協力を依頼し、試験訪問を2回実施。身体に応じた環境設定の適切な評価が受けられたり、リハビリテーションのメリットについて説明を受け、意欲増進につながった。
⇒令和元年度、つくば市地域リハビリテーション活動支援事業として事業化となった。